

## [資 料]

# 最高裁において永山事件第一次上告審判決以降 平成27年末までに確定した死刑判決一覧

永 田 憲 史

### 目 次

- 1 資料公表の必要性
- 2 紹介方法及び凡例
- 3 被殺者3名以上の事案
- 4 被殺者2名の事案
- 5 被殺者1名の事案

## 1 資料公表の必要性

死刑選択基準を議論するに当たっては、死刑判決を全て検討した上で、これまでの死刑選択基準について分析することが前提となる。しかし、マスコミ等において、これまでの死刑選択基準とは明らかに異なる説明を行なったり、個々の事件の感想や自己の主張を述べたりすることに終始する研究者や（元）実務家が今なお少なくない。

その理由として、最高裁において確定したものに限定しても、死刑判決の全ての判決文を収集することは容易なことではないという事情が存在する。なぜなら、最高裁が重要であると考ええる刑事判例は、最高裁判所刑事判例集（刑集）に掲載されるが、一部の事件を除き、死刑判決は刑集には登載されず、最高裁判所裁判集刑事（裁判集刑）に登載されるに留まっているからである。裁判集刑は、裁判所の内部資料と位置付けられているため、頒布先が相当限定されている。大学では、現在、東北大学、東京大学、京都大学の3つの国立大学法人の図書館にのみ寄贈されているにすぎず、有償の頒布も行なわれていない。また、裁判集刑登載判例は、裁判所のホームページにも掲載されていない。さらに、このことも影響してか、判例時報や判例タイムズ等に掲載されていない大多数の裁判集刑単独掲載判例については、各種の判例データベースにも収録されていないことが少なくなかった。近時、一部の判例データベースが裁判集刑単独掲載判例を収録するようになり、状況はやや改善されたものの、過去の裁判集刑単独掲載判例をも総

最高裁において永山事件第一次上告審判決以降平成27年末までに確定した死刑判決一覧  
覧できるようになったわけではない。そのため、研究者であっても、全ての死刑判決を  
収集し、総覧することには相当の手間を伴う。

こうした中、死刑判決を収集する研究等はいくつかあるものの、網羅的に継続して収  
集するものはなく、いずれも収集対象が一定の期間内に限定されている<sup>1)</sup>。また、事件  
概要が記載されていなかったり、詳細でなかったりして死刑選択基準の検討には十分で  
ないものが見受けられるにすぎない<sup>2)</sup>。

このような経緯の下で、筆者は、現状の正確な理解と建設的な議論のために、これま  
でに作成してきた永山事件第一次上告審判決<sup>3)</sup>以降に最高裁で確定した死刑判決の一  
覧を公開し、毎年、新たに加わった死刑判決をまとめて補遺を提供してきた<sup>4)</sup>。このほ

- 1) 井上薫編著『裁判資料 死刑の理由』（作品社、1999）23頁以下、日本弁護士連  
合会第47回人権擁護大会シンポジウム第3分科会実行委員会『死刑と無期の量刑基  
準に関する調査研究報告 死刑と無期のはざ間で——検察量刑基準を斬る——』（  
日本弁護士連合会、2004）31頁以下〔日本弁護士連合会編著『死刑執行停止を求  
める』（日本評論社、2005）115頁以下〕は、ともに永山事件第一次上告審判決以降  
の死刑判決を網羅しようとするものであるが、それぞれ、平成7年（1995年）まで  
と平成13年（2001年）までの判決を収録しているにすぎない。
- 2) 佐久間哲『死刑に処す——現代死刑囚ファイル——』（自由国民社、2005）243頁  
以下は、昭和22年（1947年）以降、平成17年（2005年）までの死刑確定事件を収載  
しているものの、事件概要が相当簡略である。さらに、年報・死刑廃止編集委員会  
編『年報・死刑廃止』（インパクト出版会、各年刊行）には、毎年度、「死刑を宣告  
された人たち」として死刑確定者らの氏名及び事件名が記載されているものの、事  
件内容については記述されていない。同誌には、1998年度版以降、前年の「死刑判  
決・無期懲役判決（死刑求刑）一覧」が掲載されており、事件内容が詳細に紹介さ  
れているものの、それより前の事件についてはまとめられていない。
- 3) 最判昭58年7月8日刑集37巻6号609頁。
- 4) 拙稿「最高裁において永山事件第一次上告審判決以降に確定した死刑判決一覧  
（裁判集刑292号まで）」関西大学法学論集59巻1号（2009）109頁以下。最高裁にお  
いて永山事件第一次上告審判決以降平成20年（2008年）末までに確定した死刑判決  
をまとめたものとして、拙著『死刑選択基準の研究』（関西大学出版部、2010）203  
頁以下。拙稿「最高裁において平成20年に確定した死刑判決一覧」関西大学法学論  
集59巻6号（2009）100頁以下、同「最高裁において平成21年に確定した死刑判決  
一覧」関西大学法学論集60巻6号（2011）59頁以下、同「最高裁において平成22年  
に確定した死刑判決一覧（付・裁判員裁判において平成22年に言渡された死刑判決  
一覧）」関西大学法学論集61巻6号（2012）184頁以下、同「最高裁において平成23  
年に確定した死刑判決一覧（付・裁判員裁判において平成23年に言渡された死刑判  
決一覧）」関西大学法学論集62巻6号（2013）1頁以下、同「最高裁において平

か、筆者は、同様の方針で、永山事件第一次上告審判決より前の死刑判決一覧を年代ごとにとまとめるとともに<sup>5)</sup>、犯行当時少年の被告人に対する死刑判決の一覧を公表してきた<sup>6)</sup>。いずれにおいても、紹介する事件は最高裁で確定したものに限定してきた。これは、先に述べたように、最高裁で確定した事件についてはその全てが裁判集刑に登載されるものの、下級審で確定した事件については判例集に登載されないことも多く、判決文の入手にいっそうの困難が伴うためである。

以上の死刑判決の一覧のうち、永山事件第一次上告審判決以降に最高裁で確定した死刑判決の一覧については、近時、補遺が積み重なり、一覧性が損なわれるようになって、死刑事件の弁護人らから補遺を取り込んだ資料を求められるようになった。また、縦書きよりも横書きのほうが使いやすいたの声も頂戴していた。

そこで、今回、これまでの補遺に加えて、最高裁において平成27年（2015年）<sup>7)</sup>に確定した死刑判決までを取り込んで新たに一覧を作成し、横書きに改めて、公表することとした。これにより、永山事件第一次上告審判決以降、裁判集刑318号までに掲載された死刑判決計186件を総覧できるようになった。

これを被殺者数別に見ると、被殺者26名が1件、同25名が1件、同20名が1件、同19

---

「成24年に確定した死刑判決一覧」関西大学法学論集64巻1号（2014）75頁以下、同「最高裁において平成25年に確定した死刑判決一覧」関西大学法学論集64巻6号（2015）29頁以下、同「最高裁において平成26年に確定した死刑判決一覧」関西大学法学論集65巻6号（2016）1頁以下。

- 5) 拙稿「最高裁において昭和20年代中葉に確定した死刑判決一覧」関西大学法学論集65巻5号（2016）15頁以下、同「最高裁において昭和40年代に確定した死刑判決一覧」関西大学法学論集62巻3号（2012）28頁以下、同「最高裁において永山事件第一次上告審判決前の昭和50年代に確定した死刑判決一覧」関西大学法学論集64巻2号（2014）24-31頁。
- 6) 犯行当時少年の被告人に対する死刑判決の一覧として、拙稿「最高裁において第二次世界大戦終戦後に犯行当時少年の被告人に対して確定した死刑判決一覧」関西大学法学論集59巻2号（2009）144頁以下。
- 7) 平成27年には、第一審の裁判員裁判で死刑が言渡されたものの、控訴審で破棄されて無期懲役が言渡された事件に対し、検察官が死刑選択基準に関する判例違反を主張して行なった2つの上告について、最高裁が棄却している。最決平27年2月3日刑集69巻1号1頁、最決同日刑集69巻1号99頁。また、第一審で死刑が言渡されたものの、控訴審で破棄されて無期懲役が言い渡された事件に対し、弁護人が行なった上告について、最高裁が棄却している。最決平27年2月9日公刊物未登載（LEX/DB 文献番号 25506132）。これは、【3-29】最判平26年9月2日裁判集刑314号267頁の共犯者の事件である。

最高裁において永山事件第一次上告審判決以降平成27年末までに確定した死刑判決一覧名が2件、同16名が2件、同14名が1件、同12名が2件、同10名が1件、同8名が2件、同7名が2件、同6名が2件、同5名が8件、同4名が21件、同3名が30件、同2名が89件、同1名が21件となっている。

今後も、毎年、補遺を公表することで、最新の情報を提供し続けることとしたい。

なお、死刑選択基準に関する分析については、拙著及び拙稿をご覧いただきたい<sup>8)</sup>。

## 2 紹介方法及び凡例

被殺者数3名以上の事案、被殺者数2名、被殺者数1名の事案に分け、紹介することとした。被殺者数2名及び被殺者数1名の事案については、死刑選択基準を考察する上で重要であると考えたため、犯行の目的別に分類した。

事案の概要は、確定した判決の判決文によった。審級間で量刑が異なった事件については、できる限り、審級ごとに判示された量刑事情について紹介することとした。

《凡例》

【被殺者数——同一被殺者数・同一類型中の判決順】

J：犯行当時少年

Li：無期懲役で服役後、仮出獄・仮釈放中の犯行

Z：死刑に関する刑訴法411条2号による破棄

## 3 被殺者3名以上の事案

【26-1】最判平22年1月19日裁判集刑300号1頁

オウム真理教信者。弁護士一家3名を殺害。松本サリン事件で7名を殺害。地下鉄サリン事件で12名を殺害、絞殺や VX ガス等で4名を殺害。教団の組織防衛を目的。組織的、計画的、反社会的。教団の古参幹部。教祖から指示を受け、大部分の犯行において積極的に実行、重要な役割。前科なし。負傷者の健康被害深刻。被害感情厳しい。謝罪の言葉はあるも、自己の行為が正当であると主張。事案の解明に寄与。

【24-1】最判平23年11月18日裁判集刑305号1頁

オウム真理教信者。弁護士一家殺害事件で3名殺害。松本サリン事件で7名殺害。

---

8) 拙著・前掲注(6)。主要な拙稿として、拙稿「死刑の基準——永山基準は葬り去られたのか」法学セミナー732号(2016)22頁以下、同「死刑選択基準」井田良ほか編『浅田和茂先生古稀祝賀論文集〔下巻〕』(2016、成文堂)543頁以下。

地下鉄サリン事件で12名を殺害。VX ガスで2名を殺害。東京都庁に爆発物を郵送し殺人未遂。教団の組織防衛を目的。組織的、計画的、反社会的。教団の幹部。爆発物事件を除き、教祖から指示を受けて実行。共犯、多数の犯行に関与、弁護士一家殺害事件では実行役等犯行遂行のために不可欠で重要な役割。前科なし。負傷者の健康被害深刻。被害感情厳しい。真摯な謝罪、贖罪寄付。

【20-1】最判平23年2月15日裁判集刑303号1頁

オウム真理教信者。松本サリン事件で7名殺害の幫助。地下鉄サリン事件で12名を殺害。VX ガスで1名を殺害。教団の組織防衛を目的。組織的、計画的、反社会的。教団の幹部。教祖から指示を受け、サリンや VX ガスを開発及び生成。共犯、実行行為には関わらず、具体的な犯行計画を知らなかったものの、重要な役割。前科なし。負傷者の健康被害深刻。被害感情厳しい。あくまでも教祖に帰依、責任回避の供述、真摯な反省なし。

【19-1】最判平20年2月15日裁判集刑293号79頁

地下鉄サリン事件で12名殺害、多数を傷害。新宿駅地下街の公衆便所内に青酸ガスの発生装置を仕掛ける。松本サリン事件の際、サリン噴霧車の製作により7名殺害を幫助。大規模な組織的計画的犯行、無差別大量殺人。地下鉄サリン事件の実行犯。負傷者は深刻な健康被害。被害感情厳しい。一般市民を不安と恐怖に陥れた社会的影響。上位の教団幹部により指示される。

【19-2】最判平23年11月21日裁判集刑305号203頁

オウム真理教信者。松本サリン事件で7名殺害。地下鉄サリン事件で12名を殺害。弁護士をサリンで殺人未遂。VX ガスで殺人未遂。東京都庁に爆発物を郵送し殺人未遂。教団の組織防衛を目的。組織的、計画的、反社会的。教団の幹部。共犯、サリンの生成に主体的に関与する等犯行に欠くことのできない重要な行為や任務。前科なし。負傷者の健康被害深刻。被害感情厳しい。捜査に協力。謝罪の手紙、贖罪寄付。

【16-1】最判平5年2月19日裁判集刑262号39頁

連合赤軍事件。殺人未遂他余罪多数。

【16-2】最判平26年3月6日裁判集刑313号17頁

個室ビデオ店において自殺を図ろうと放火、16名を殺害。店舗は全焼。多数の死者

最高裁において永山事件第一次上告審判決以降平成27年末までに確定した死刑判決一覧  
が出ることを確定的には認識せず。前科なし。捜査段階終盤から放火を否認、真摯な  
反省の態度なし。

【14-1】最判平21年12月10日裁判集刑299号565頁《第1審無期懲役》

オウム真理教信者。元信者を絞殺。VX ガスで1名を殺害、2名を殺害しようとするも失敗。信者の家族を逮捕監禁致死、死体を焼却。地下鉄サリン事件で無差別に12名を殺害、多数を傷害。強制捜査を阻止するため、教団経営の店舗内に火炎びん投棄。新宿駅地下街で青酸ガスを発生させようとするも失敗。教団の組織防衛を目的。組織的、計画的、反社会的犯行。教団幹部、犯行に関与、犯行全体の円滑な実行のために不可欠で重要な役割、犯行計画の具体的内容を指示説明。サリン暴露の後遺症で多数に深刻な健康被害。被害感情厳しい。前科なし。事案解明に貢献。真摯な反省悔悟。被告人及び両親が寄付。第1審は、(1) 地下鉄サリン事件への関与について、具体的決定に関与しておらず、もともと予定されていなかったとし、意思決定者やそれに付随する立場ではなく、実行役に対して指示命令する上位者として行動したわけでも、実行役に匹敵するような行為をしたわけでもなく、後方支援又は連絡調整役にすぎず、主導的役割を果たしていないこと、(2) 他の事件についても指揮主導した事件では被害者が死亡していないこと、(3) マインドコントロールについても過大視はできないものの、それなりに評価できることを指摘して、無期懲役を言渡した。控訴審は、(a) 統合調整という極めて重要な役割を果たしており、実行役と同等の責任があること、(b) 他の事件でも重要な役割を果たす等したこと、(c) マインドコントロールの影響力は支配的なものではないことを挙げて破棄自判し、死刑を言渡した。

【12-1】最判平19年7月20日裁判集刑292号121頁

地下鉄サリン事件で12名殺害、多数を傷害。自動小銃を大量に製造しようと企て、小銃1丁を製造。大規模な組織的犯行、入念な計画、周到な準備、多数の共犯者間で役割分担、犯行に積極的に関与、実行。自動小銃製造の責任者。平日朝の通勤時間帯を狙い、不特定多数の市民を標的。強度の反社会性。

【12-2】最判平21年11月6日裁判集刑298号1頁

被告人2名。オウム真理教信者。地下鉄サリン事件で12名殺害。傘でサリン入り袋を突き刺した実行犯。自動小銃の製造未遂。被告人のうち1名は新宿駅地下街で青酸ガスを発生させようとするも未遂、東京都知事を爆発物で殺害しよう企んで爆発物

を製造して郵送して郵便物の点検作業をしていた都職員に重篤な障害を負わせる。別の被告人は小銃1丁を製造。いずれも共犯者あり。教団の組織防衛を目的。組織的、計画的、反社会的犯行。上位の教団幹部の指示、犯行に積極的に関与。被害感情厳しい。社会に不安と恐怖。反省。

【10-1】 最判平19年10月26日裁判集刑292号331頁

弁護士一家3人を殺害。松本サリン事件で7人を殺害、4名を傷害。化学プラント建設によりサリン製造を企てる。組織的、計画的犯行。教団幹部に指示され、犯行に加担、従属的・追従的に参加、重要な役割。執拗に犯跡隠蔽。強度の反社会性。反省。前科なし。

【8-1】 最判昭62年3月24日判時1228号22頁

連続企業爆破事件、余罪多数。

【8-2】 最判平6年1月17日裁判集刑263号1頁

途中、執行猶予付判決をはさんで10年余りで強盗強姦殺人1件、強盗殺人6件、殺人1件等。余罪多数。利欲目的。遊興が原因。広域事犯。後期には散弾銃や拳銃を使用。

【7-1】 最判平27年2月2日裁判集刑316号1頁

歩行者天国で無差別殺人を企て、トラックを衝突させて3名を殺害、ダガーナイフで刺突して4名を殺害、計10名を傷害。現行犯逮捕をしようとした警察官への殺人未遂、公務執行妨害。前科前歴なし。社会に大きな衝撃。遺族の処罰感情峻烈。

【7-2】 最判平27年5月25日裁判集刑317号1頁

自宅と隣接する2軒の家屋内等において骨すき包丁で刺突する等して親族を含む7名を殺害、1名に重傷を負わせる。母親が現住する自宅に放火し全焼させる。骨すき包丁を準備する計画性、犯行数年前から親族を殺害した後に自宅に放火するためにガソリンを準備。地域社会への影響も甚大。前科なし。妄想性障害に罹患。

【6-1】 最判平19年2月20日裁判集刑291号185頁

宝飾品の強取目的でガソリンに放火、女性従業員のみの高級宝飾店全焼、6名殺害。1億4000万円強の宝飾品強取。被害者全員の手足を縛って目隠しをした上で店内奥の休憩室に押し込めてから放火。



最高裁において永山事件第一次上告審判決以降平成27年末までに確定した死刑判決一覧

【6-2】 最判平23年12月12日裁判集刑306号547頁

自由を制約して支配下に置いていた男性に暴行や虐待を加え続けて多臓器不全により死亡させて殺害。母、妹夫婦、その子2名を殺害、父を電撃死させる傷害致死、遺体を解体して煮込み、肉と骨を分離して遺棄。他に詐欺、強盗、監禁致傷2件。共犯、犯行を首謀、主導性、内縁の妻である共犯者は無期懲役。

【5-1】 最判平8年11月14日裁判集刑269号3頁

建物明渡し交渉不調のため、乳幼児3人とその父母を殺害。死体を損壊。

【5-2】 最判平16年6月15日判タ1160号109頁

被告人の下から現金を持ち逃げした窃盗の共犯者を殺害。知り合った女子高生に疎まれたため、共犯者と一緒に女子高生とその家族合わせて3名を殺害。女子高生殺害の共犯者を口封じのため殺害。窃盗多数。凶器たる刃物を毎回用意。身体枢要部をめった刺しにする確定的殺意。8か月で5人殺害。定職なし、常習的に窃盗。若年。罰金刑以外に前科なし。殺害に一応反省の弁。

【5-3】 最判平17年7月8日裁判集刑287号519頁

情交関係を持った女性4名をそれぞれ殺害、2名を死体損壊・死体遺棄。9歳女兒をわいせつ目的で誘拐、殺害、身代金要求。窃盗罪で2度服役。窃盗で生計。捜査段階で自白、反省。

【5-4】 最判平17年12月15日裁判集刑288号775頁

憤懣の情から殺害。開業資金の援助の約束の履行を迫られ殺害。アルバイト料の支払を迫られ殺害。繁殖用の犬の入手を迫られ殺害。死体の存在を察知されたと思い込み殺害。いずれも筋弛緩剤を使用。1年4か月間に次々犯行。捜査段階では反省。

【5-5】 最判平19年3月27日裁判集刑291号301頁

金員強取目的で消費者金融会社に押し入り、ガソリン等を撒き脅迫するも支店長が警察に通報したため、憤激して放火し、同店入居の3階部分全焼、5名殺害、4名重傷、後遺症。とっさの決意。未必の故意。犯行前日に下見、ガソリン等を準備。前科なし。

【5-6】 最判平20年4月24日裁判集刑294号211頁

同じ暴力団組織の幹部5名を拳銃で相次いで射殺。計画性。住宅街にある暴力団事



務所での犯行。殺人未遂等の相当数の前科。被害者らが被告人を殺害しようとしていたための先制攻撃と主張。自首。

【5-7】 最判平20年 7月11日裁判集刑294号603頁

JR 下関駅前歩道及び同駅コンコース内に自動車で侵入して衝突させ2名を殺害、改札口内の階段やホームで包丁により3名を刺殺、合わせて10名に重軽傷を負わせる。確定的殺意。周到な準備。無差別大量殺人。遺族の処罰感情峻烈。前科なし。対人恐怖症で自己の将来に失望して自暴自棄になり犯行に及ぶ。

【5-8】 最判平26年 3月14日裁判集刑313号235頁

【4-13】、【4-21】の共犯者。対立する暴力団の元幹部を殺害しようとスナックで拳銃を発射させ、一般客3名を含む4名を殺害、元幹部ら2名に重傷を負わせる殺人未遂。発砲事件に関与した組員が命令に従わなくなったことから、制裁及び口封じのため、射殺させる。他に火炎瓶による放火、拳銃発射による殺人未遂等。共犯、暴力団組長として首謀、実行犯らに具体的指示。組織性、計画性。暴力団組織の幹部が一部の遺族と和解。責任回避の言動に終始、真摯な反省の情なし。

【4-1】 最判昭63年 6月2日裁判集刑249号595頁《第一審無期懲役》

売春婦に追加代金を支払ったもののコンドームをつけない性交を拒否され殺害、金品奪取。男娼を金品奪取のため殺害。代金踏み倒しを敢行しようと売春婦を殺害。金品を強取しようと売春婦を性交後に殺害。うち2件は少年時。買春を生き甲斐とする生活。窃盗で少年院収容。第一審は、(1) 計画性のない犯行であったこと、(2) 犯行対象が売春婦や男娼であって危険に身をさらした特殊な者であったこと、(3) 知能が限界級にある上、生育歴・家庭環境・生活歴・性格特性が悪いことに犯罪原因があり、矯正可能であること、(4) 進んで自白する等、改悔が見られるとして無期懲役とした。控訴審は、(a) 強固ではないが、場合によっては殺害しようとする意図があったこと、(b) 被害者には生命の危険まで認められず、格段の落ち度がないこと、(c) 習癖性が看取され、矯正が疑問であること、(d) 改悔を重視すべきでないこと、(e) 殺害方法がいずれも執拗で、金品を冷静かつ徹底的に奪っており、犯跡隠蔽に努めていること、(f) 当審で初めてなされた慰謝の措置が僅少であること、(g) 被害者遺族の感情が熾烈であることを挙げ、死刑とした。

【4-2】 最判平2年 4月17日判時1348号15頁《第一次控訴審無期懲役》

最高裁において永山事件第一次上告審判決以降平成27年末までに確定した死刑判決一覧

永山事件。米軍基地内で窃取した拳銃を用いて、約半年の間に東京都内と京都府内で警備員を射殺、北海道内と愛知県内でタクシー運転手を射殺して金員を強取、東京都内で警備員を射殺未遂。非行歴、保護観察中の犯行。第一審は、(1) 犯行が多数回であること、(2) 予め実包を装填し、至近距離から頭部を射殺する等犯行態様が残虐悪質で人命蔑視が明らかであること、(3) 動機に酌量の余地がないこと、(4) 自首の勧奨を無視したこと、(5) 広域犯罪であること、(6) 社会的影響が重大であったこと、(7) 法廷闘争を行うとともに、責任転嫁をし、悔悟反省がないこと、(8) 環境不良の過大評価の不当性、(9) 精神病質であるものの知能程度がかなりよいこと、(10) 犯行時に年長少年であったこと等を指摘し、死刑判決を下した。これに対し、第一次控訴審は、「ある被告事件につき死刑を選択する場合があるとすれば、その事件についてはいかなる裁判所がその衝にあつても死刑を選択したであろう程度の情状がある場合に限定せらるべきものとする」と判示した上、(a) 福祉政策の貧困等もあつて被告人の精神的成熟度は18歳未満の少年と同視しえたため、少年法51条の精神を及ぼすべきであること、(b) 第一審後婚姻し心境の変化が看取されること、(c) 印税を一部遺族への賠償にあてる等慰謝の措置が講じられていることを挙げ、無期懲役の判決を下した。第一次上告審は、死刑選択基準を判示し、(A) 環境的負因重視の不当性、(B) 犯行時に年長少年であったこと、(C) 一貫して責任転嫁の姿勢を維持していること、(D) 婚姻や被害弁償の過大評価の不当性を指摘して、刑訴法411条2号により破棄差戻とした（最判昭58年7月8日刑集37巻6号609頁）。第二次控訴審は、(a) 精神的成熟度の低さ、(b) 犯行時に少年であったこと、(γ) 執筆活動、(δ) 被告人なりの反省、(ε) 法廷での態度の改善を認めつつも、罪質・態様・事案の重大性を重視して第一審の死刑判決を維持した。第二次上告審も死刑判決を維持した。

【4-3】 最判平5年12月10日裁判集刑262号1409頁

支払免脱目的。ライフルで射殺。各被害者に発砲・命中後、頭部に打ち込み止めを刺す。計画性のない衝動的犯行。反省あり。強度の支払督促という被害者の若干の落ち度も示唆。

【4-4】 最判平9年9月11日裁判集刑271号207頁

愛憎が原因。内縁関係の解消に対し、相手の姉とその家族3人を殺害。

【4-5】 最判平12年9月8日裁判集刑279号144頁

6年半の間に、2件の殺人と2件の強盗殺人。反省。

【4-6J】最判平13年12月3日裁判集刑280号713頁

強姦の被害者宅に当初窃盗目的で侵入、83歳のその祖母、父母、4歳の妹を順次殺害。当初殺害の計画性なし、偶発的犯行が発展・拡大した側面。別個に強姦致傷や傷害等を累行。爆発性精神病質。犯行時少年。暴力団組長に多額の金銭を要求され、金策に困っての犯行。逮捕当初全面否認。以前から家族に暴力、祖父をほぼ失明させる。女性関係放埒。反省。母が被害弁償に熱心。

【4-7】最判平17年4月7日判タ1181号187頁

オウム真理教信者。教団から脱会しようとした信者を殺害。被害対策弁護団の弁護士一家3名を殺害。それぞれ4名、6名で敢行。組織的。計画性。信者の遺体は焼き尽くす。弁護士一家の遺体は山中に埋める。反省。

【4-8】最判平17年6月7日裁判集刑287号399頁

いずれもスナックの女性経営者を殺害。強盗殺人未遂、中止犯。強盗致傷。少年時に強姦未遂で不定期刑。出所後間もなく強盗致傷で服役。再出所後に暴力団関係者に追われる。不遇な生育歴。

【4-9】最判平18年1月17日判タ1205号129頁

10か月間に4歳乃至7歳の女兒4人を相次いで誘拐・殺害、2名の死体遺棄、2名の死体損壊。6歳の女兒を誘拐、強制わいせつ。ビデオ撮影。屍姦。死体を切断。遺骨や犯行声明文を遺族に送付。先天性の右腕の障害。母親が800万円の慰謝料支払。責任能力の鑑定が人格障害／反応性精神病／破瓜型精神分裂病と対立。

【4-10】最判平20年9月16日裁判集刑295号71頁

連日数時間断続的に多数回殴打し足蹴にする等の暴行により4名を殺害、2名を傷害致死、1名に傷害。なぶり殺しとも言える陰惨なもの。宗教的集団を形成、集団内部での犯行。被害者らは暴行から逃げようとせず。信徒らと共に、主導性。遺体を腐敗するまで放置。遺族の処罰感情峻烈。前科なし。女性。反省不十分。

【4-11】最判平21年4月21日判時2043号153頁

自治会の夏祭りのカレー鍋に亜砒酸を混入、急性砒素中毒で16歳及び10歳を含む4名を殺害、63名に対する殺人未遂、後遺症残る被害者も存在。殺意は未必的。犯行動

最高裁において永山事件第一次上告審判決以降平成27年末までに確定した死刑判決一覧  
機未解明。全面的に否認。地域社会に衝撃甚大。他に殺人未遂及び保険金詐欺。保険  
金詐欺を長年累行，犯罪性向根深い。前科なし。

【4-12】最判平21年6月5日裁判集刑296号539頁

被告人2名。夫婦で犬の繁殖販売業を営み，不当に高額で犬を購入させた代金の返還を免れるため，硝酸ストリキニーネで毒殺。殺害を察知して財産的要求を繰り返した暴力団幹部及びその付き人を同様に毒殺。虚偽の出資話が露見することを恐れて同様に毒殺。いずれも別の共犯者と共謀して死体を解体し焼損して投棄。計画性。死体解体用の包丁や死体焼却用の薪も準備。妻の被告人は実行行為及び第三事件に関与せず。夫の被告人には科料の前科のみ，妻の被告人には前科なし。虚偽の弁解。真摯な反省なし。

【4-13】最判平21年7月10日裁判集刑297号59頁

対立する暴力団幹部を殺害しようと住宅街にあるスナック内外で至近距離から発砲，ボディーガード1名及び一般客3名を射殺，暴力団幹部及びその知人に重傷を負わせる。計画性。強固な殺意。自己の所属する暴力団組長からの命令。共犯。実行役として自ら2名を射殺。共犯者とともに対立する暴力団の別の幹部宅に火炎瓶で放火するも未遂，逃走時に拳銃発射。襲撃準備のために拳銃及び盗難自動車を譲受け。発砲事件後に海外へ逃亡するために他人名義の旅券を入手し，出国。前科なし。遺族の処罰感情峻烈。事案の全容解明に協力。反省。

【4-14】最判平21年7月17日裁判集刑297号209頁

オウム真理教信者。出家信者を殺害。弁護士一家3名を殺害。化学プラントを建設してサリンを大量に生成しようと企てて殺人予備。いずれも共犯者あり。LSDの製造に関する麻薬及び向精神薬取締法違反等も実行。教団の組織防衛を目的。組織的，計画的，反社会的犯行。教団幹部として積極的に関与。被害感情厳しい。社会に大きな衝撃。反省。

【4-15】最判平22年9月16日裁判集刑301号191頁

現住建造物等放火により住宅等7棟を全焼させ，4人を殺害。現住建造物を非現住建造物と誤信して放火し1名が焼死した後も放火を継続した末の犯行。他に現住建造物等放火2件，同未遂1件，非現住建造物等放火1件，放火による器物損壊1件。いずれも経済的苦境等に対する不満や悩み等による鬱憤を晴らすために建物密集地等で

無差別に放火。計画性のない通り魔的犯行。遺族の処罰感情峻烈。財産的被害も大きく、各被害者の処罰感情も厳しい。道路交通法違反による罰金以外の前科なし。捜査段階では積極的に供述、反省。

【4-16】 最判平23年3月10日裁判集刑303号133頁《被告人2名について第一審無期懲役》

被告人3名。工事業者に人夫を送り込んで金員を得ようと男性を監禁して暴行するも、人夫として送り込むことに失敗、その処置に困惑し、絞殺、死体遺棄。シンナー吸引中のトラブルから男性を殺害。ボーリング場で出会った3名に因縁を付けて暴行、監禁、アルミ製パイプで殴打して2名を失血死させ、強殺。他に強盗致傷、恐喝等。共犯。犯行当時少年。暴力団と関係。2名は生育歴悪く、教護院での生活歴、少年院送致の前歴あり。1名は保護観察の前歴あり。第1審は、シンナー吸引中のトラブルの事件について傷害致死とした上で、被告人1名を死刑としたものの、被告人2名については死刑とした被告人に対して従属的であること等を指摘し、無期懲役とした。控訴審は、第1審が傷害致死とした事件について殺人とした上で、第1審が無期懲役とした被告人2名について極めて重要な役割である又は追随的従属的であったとは言えないとして死刑とした。

【4-17】 最判平23年10月3日裁判集刑304号227頁

被告人2名。暴力団組長とその長男。いずれも、【4-18】の共犯者。暴力団組長である被告人が憤懣の情を晴らし、金銭を強取するため、金融業者を殺害することを計画しておびき出したことを同組長の長男である被告人が出し抜き、その弟とともに金融業者の次男を強殺。共犯者と共謀し、金融業者を強殺、金融業者の長男と長男の知人を口封じのために拳銃とアイスピックで殺害、拳銃の加重所持、死体遺棄。他に暴力団組長である被告人は拳銃の加重所持、その長男である被告人は逃走。共犯、暴力団組長である被告人は殺害行為を直接担当していないものの、金融業者の殺害計画に当初から関与、共犯者を引き込み、殺害の実行を指示、拳銃を手渡し、殺害方法を指示、犯行を主導、その長男である被告人は共犯者を引き込んで金融業者殺害について主導的に犯行実行、金融業者の長男らの殺害について積極的に関与。被害感情極めて厳しい。暴力団組長である被告人は謝罪、その長男である被告人は捜査段階では犯行をおおむね認める。

最高裁において永山事件第一次上告審判決以降平成27年末までに確定した死刑判決一覧

【4-18】 最判平23年10月17日裁判集刑304号347頁

被告人2名。暴力団組長の妻とその次男。いずれも、【4-17】の共犯者。同組長の妻である被告人は金融業者、その長男、長男の知人の殺害に関与。同組長の次男である被告人は、4名の殺害に関与。共犯、同組長の妻である被告人は殺害行為を直接担当していないものの、共犯者を引き込み、殺害を叱咤、殺害方法を指示を伝達、積極的に犯行に関与、その次男である被告人は殺害の実行犯。反省。

【4-19】 最判平23年10月20日刑集65巻7号999頁

訴外共犯者2名と共謀し、金品を得るため、夫婦及び児童2名の一家4人を強殺、死体遺棄。他に傷害、詐欺、住居侵入、強盗、建造物侵入、窃盗。供用物件を準備、下見等周到に謀議と準備を重ねる計画性。共犯、共犯者に誘われて犯行に加担したものの、謀議や犯行準備の段階から深く関与、実行行為の重要な部分を担当、共犯者2名も中国からの留学生で、事件後に帰国して中国で死刑と無期懲役。遺族の処罰感情峻烈。犯罪事実をおおむね認め、反省。

【4-20】 最判平23年11月22日裁判集刑305号401頁

会社社長宅に押し入って家人2人を強殺した後に放火。歯科医師宅に押し入って歯科医師を強殺。会社社長宅に押し入って家人1人を強殺。共犯者と服役中から資産家宅での強盗殺人を企む計画性。共犯、1件目は共犯者から誘われるも、2件目以降は犯行を持ち掛け、殺害等の実行行為の重要な部分を担い、分け前も同等、共犯者は第1審の死刑判決に対して控訴するも取下げで死刑確定（千葉地判平19年3月22日公刊物未登載）。殺人等の前科。反省。

【4-21】 最判平25年6月7日裁判集刑311号1頁

所属する暴力団の組長から命じられる等して対立する暴力団の元幹部を殺害しようとスナックで拳銃を発射し、一般客3名を含む4人を殺害、元幹部ら2名に重傷を負わせる殺人未遂。共犯、実行役、少なくとも1名は射殺、大きな役割。この事件前に元幹部に拳銃を発射し重傷を負わせる殺人未遂。計画性。厳しい処罰感情の被害者遺族も。一部の遺族と和解。殺意や共謀を否認する等不合理な弁解、真摯な反省なし。

【3-1】 最判昭59年9月13日裁判集刑238号11頁

強盗3件で4歳、10歳、70歳の被害者を殺害。4名に対する殺人未遂。別件で殺害を伴わない同種確定判決あり。刑務所出所後即犯行に及び、ハンマーで強打して刺傷

という同種前科多数。

【3-2】 最判昭60年4月26日裁判集刑239号299頁

交際中の女性を連れ戻そうとし、その際その家族の女性2名とともに同女をも殺害。女性関係の乱れと浪費あり。

【3-3】 最判昭63年3月8日裁判集刑248号545頁

保険金目的3件。窒息死2名，ダンプカーで轢殺1名。

【3-4】 最判平元年10月13日裁判集刑253号1頁

愛人の夫を殺害。金銭絡み2件。現住建造物放火未遂も。殺害を共謀・依頼，直接手は下さず。計画性。アリバイ作り等証拠隠滅工作。永山事件との違いを控訴審が指摘。

【3-5】 最判平元年11月20日裁判集刑253号555頁

弟の自殺の原因を実父のせいと誤解。実父と同居女性と1歳のその孫を殺害。3年間周到に準備。

【3-6】 最判平2年4月27日裁判集刑254号613頁《第一審無期懲役》

資金援助を拒絶され，2名をバットで強打，絞殺。犯行隠蔽のため同一強盗の被害にあったことを偽装しようと妻を絞殺，自傷。あわせて保険金詐取を目論む。第一審は，(1) 前科がなく，犯罪傾向がないこと，(2) 自己の経営する会社が倒産の危機にあったための犯行であること，(3) 倒産の危機の原因となった取込詐欺に被害者が全く無関係とは言えないこと，(4) 反省し慰謝の措置が講じられつつあることを挙げて，無期懲役とした。控訴審は，(a) 殺害方法が執拗かつ残虐であること，(b) 犯跡隠蔽と偽装工作がなされたことを強調して，死刑とした。

【3-7】 最判平2年10月16日判時1367号138頁

借金申込を断られ口論となり激情し刺殺。証拠隠滅のため，その家族2名も刺殺。凶器携行。反省なし。

【3-8】 最判平5年9月21日裁判集刑262号421頁

保険金目的2件。債務免脱目的で1名。うち，溺死1名，鉄棒で撲殺2名。共犯，主導性。計画性。



最高裁において永山事件第一次上告審判決以降平成27年末までに確定した死刑判決一覧

【3-9】 最判平 7 年 4 月21日裁判集刑265号567頁

水道用ホースバンド窃盗犯と邪推、口論となり衝動的に多数回刺殺。とどめをさす。妄想型人格障害のため、邪推曲解しやすい傾向を有する軽度知的障害。責任転嫁。遺族との間に和解成立。

【3-10】 最判平 8 年12月17日裁判集刑269号719頁

強盗、母子殺害。また、強盗目的で1名殺害、金員奪取できず。計画的犯行、凶器携行。自首。反省。

【3-11】 最判平10年12月 1 日裁判集刑274号961頁

共犯者に借金を申し込んでいた1名を殺害。キャッシュカードを盗んで300万円を引き出し、それが発覚したため、2名を殺害。反省。300万円を弁償。

【3-12】 最判平11年 2 月25日裁判集刑275号211頁

強盗殺人1件。その共犯者を口封じのため殺害。預金目当てに1名殺害。財産犯の前科多数。

【3-13】 最判平11年 3 月 9 日裁判集刑275号293頁

保険金目的で1名殺害。犯行に気付いた2名を殺害。他に、殺人未遂1件、強盗致傷2件、拳銃を使用した金融機関への強盗1件。共犯、主導性。暴力団組長。

【3-14】 最判平11年 6 月25日裁判集刑275号647頁

妻の実姉を殺害し、預金を詐取。犯跡隠蔽のため、同女の生存を偽装する手紙を代筆した女性を殺害。妻の父親を殺害した後、金品を窃取。

【3-15】 最判平11年 9 月13日裁判集刑276号45頁

結婚を断られ交際相手とその家族2名を殺害。2名に殺人未遂。

【3-16】 最判平14年 6 月11日裁判集刑281号523頁

被告人2名。強盗目的で売上金運搬中のパチンコ店店員を殴打、刺殺。綿密な相談、凶器の準備、襲撃の予行演習等高度の計画性。共犯。ともに従属性。主導的な共犯者は国外逃亡。被告人1名は犯行否認、被告人1名は犯行につき積極的に供述し悔悟の情。中国国籍。来日外国人で初めての死刑確定。

【3-17】 最判平16年 4 月19日裁判集刑285号117頁

利欲目的で3件の強盗殺人、1件の強盗殺人未遂。一部拳銃使用。2か月足らずの間に次々犯行。共犯、重要な役割、積極的に実行行為だが、より主導的な者あり。マレーシア国籍。

【3-18】 最判平16年9月9日裁判集刑286号1頁

男性2名に対するわいせつ目的で殺害。元同僚を強殺。準強盗未遂。いずれも睡眠薬を使用。人格障害又は性嗜好異常。十分な反省なし。

【3-19】 最判平17年9月16日裁判集刑288号1頁

利欲目的で強盗殺人3件、強盗殺人未遂。拳銃を一部使用。共犯。共犯者選択、犯行計画立案、凶器準備指示、現場での指示命令、多額の利得。捜査段階では反省。

【3-20】 最判平18年6月27日裁判集刑289号481頁

仕返し目的。同居の共犯者と強盗後、3名を殺害、2名に傷害。密入国中で中国国籍。共犯者らは被告人を疎外し、暴行する等の落度。

【3-21】 最判平19年1月30日裁判集刑291号1頁

被告人3名。訴外共犯者の前夫と知人を保険金目的で殺害。用意周到に計画。偽装工作。訴外3名と共謀。被告人のうち2名が恐喝の被害者を睡眠薬で眠らせ強盗殺人。被告人1名は従属的。反省。

【3-22】 最判平19年11月15日裁判集刑292号589頁

離婚を決意して実家に戻っていた妻の浮気を疑い、実家から無理やり連れ出してその男性関係を白状させようと企て、元養子の12歳の妻の子、妻の両親を多数回刺突し殺害。計画性、ニンジャソード等の凶器を準備。殺害前に妻に対する逮捕監禁、傷害、殺害後に妻に対する逮捕監禁致傷も。前科なし。反省の態度。

【3-23】 最判平23年3月8日裁判集刑303号107頁

強盗強姦殺人で2名、強盗殺人で1名を相次いで殺害。遊興による借金と性的欲求不満による犯行。強盗強姦殺人1件と強盗殺人について計画性。交通関係の罰金刑。死亡について反省。

【3-24】 最判平24年7月12日裁判集刑308号129頁

妻の姉が妻への借金依頼を重ね、妻が借金してまで同女に金銭を貸していたことで

最高裁において永山事件第一次上告審判決以降平成27年末までに確定した死刑判決一覧

自らが借金返済に苦勞したこと等を恨む等して、同女を包丁で多数回刺突して失血死させ殺害。騒がれて近所に気付かれないよう同女の孫2名を同様に殺害。3名を死体遺棄。同女の殺害については、包丁の柄に滑り止め加工、返り血が付かないよう雨合羽、死体搬出時用にブルーシート等の用意する周到かつ綿密な計画性。同女の孫の殺害については、偶発的な面。前科なし。知能程度境界域。同女の遺族に賠償金支払、謝罪。同女の父は寛大な処罰を求める。

【3-25】最判平24年10月23日裁判集刑308号367頁

暴力団組長である被告人が保険金詐欺事件に関する口封じ目的で同事件の関与者を拳銃で射殺。組に出入りしていた者から警察に逮捕されるよう計画した等と疑われたことに憤慨し、拳銃で射殺して死体遺棄。対立組織に参加の組長が舎弟とならなかったことから拳銃で射殺して死体遺棄。他に銃刀法違反。いずれも共犯、暴力団の組織力を活用、1件目と3件目では首謀者、2件目は実行行為。2件目の被害者に落ち度、遺族から宥恕する旨の上申書。

【3-26】最判平25年1月29日裁判集刑310号1頁 《第1審無期懲役》

架空請求詐欺を行う組織的団体内部での仲間割れにより、他の構成員と共に謀の上、3名を殺害、1名を傷害致死。高額の報酬を払って暴力団関係者に依頼して死体遺棄。他に傷害。共犯、【3-27】の被告人とともに犯行の中核メンバー、殺害の謀議において重要な役割、傷害致死に大きく寄与、いずれの実行も決定付ける等大きな役割。犯行後に口止め、2名の殺害への関与を否認、真摯な反省窺えず、更生可能性乏しい。第一審は、【3-27】の被告人に比べて、関与、役割の程度に大きな開きがあったとして無期懲役を言渡した。控訴審は、死刑を言渡した（控訴審の判決文は入手できなかった）。

【3-27】最判平25年1月29日裁判集刑310号117頁

【3-26】の共犯者。他に組織的詐欺。一貫して謀議の中核を担い、主導性、中心的立場、2名の殺害実行を指示し死体遺棄のために暴力団関係者に高額の報酬を用意する等大きな役割。殺人への関与を否認する等真摯な反省窺えず、更生可能性乏しい。

【3-28】最判平25年2月28日裁判集刑310号253頁

【3-26】、【3-27】の共犯者。1名の殺害行為の中核部分を自ら進んで実行。共犯者らを恐れて殺害行為を実行、中核メンバー2名（【3-26】、【3-27】の被告人）に対する従

属性。前科なし。事実関係をおおむね認めて反省。

【3-29】 最判平26年9月2日裁判集刑314号267頁

第1審裁判員裁判，裁判員裁判で死刑が言渡された事件で初めて最高裁で死刑判決が確定。高利貸しを中心とする事業グループの専務を昏睡状態に陥らせたところ，その妻に不審を抱かれたため，同女をロープで絞殺，昏睡状態の専務と就寝中の会長を同様に絞殺，現金約400万円を強取，死体遺棄。従業員らで共謀，準備段階の当初から主導者の相談相手，専務の妻と会長の殺害を実行，利益配分にも与る，重要で必要不可欠な役割。主導者も死刑（最判平28年4月26日裁判集刑319号307頁），従属的な共犯者は第1審で死刑判決を言渡されるも，控訴審で破棄自判されて無期懲役とされ，上告審でも維持されて確定（最判平27年2月9日公刊物未登載）。綿密とは言えないまでも計画性。会長宅で住込みで働くも，給料の不当な天引きや暴力的扱いに我慢を強いられてきた事情。両親が慰謝の措置。反省。

【3-30】 最判平26年10月16日裁判集刑315号87頁

義母との同居生活から逃れたいと思い悩んだ末に，長男の頸部を両手で締め付けて瀕死の状態にした上で，浴槽の水中に沈めて窒息死させ殺害，死体遺棄。妻の頸部を洋包丁で刺突した上で，ハンマーで後頭部を殴打して頭蓋骨を粉碎して脳挫滅により殺害。義母も同様にハンマーで殺害。強殺であるかのように偽装。義母から理不尽な非難を向けられる等，同情の余地。遺族が厳しい処罰感情。前科なし，犯罪性向強いとは言えない。反省。

## 4 被殺者2名の事案

(a) 身代金目的

【2a-1】 最判平10年9月4日判時1648号156頁

睡眠薬で昏睡状態にして絞殺2件。殺害後に身代金要求，金品授受失敗。殺害も含めて計画。放縦な生活によって生じた借金の返済を狙う。被告人は女性。愛人男性との共謀関係・共同実行があると主張するも単独犯との認定（男性は無罪確定）。前科なし。

(b) 保険金目的

【2b-1】 最判平16年11月19日裁判集刑286号571頁

最高裁において永山事件第一次上告審判決以降平成27年末までに確定した死刑判決一覧

男性を戸籍上の夫とした上、殺害、保険金詐取。被害者の内縁の妻を殺害、保険金詐取未遂。ほかに保険金詐取未遂あり。共犯。周到な計画、犯行を立案。主導的役割、重要な実行行為。被告人は女性。生育歴悪い。被害者は知的能力低い。

【2b-2】最判平17年1月25日裁判集刑287号1頁《第一審無期懲役》

保険金を得るため、いずれも殺害。共犯、第一事件につき、共犯者から誘引されるも、全ての実行行為、報酬700万円の約束、自殺に見せかける偽装工作。第二事件につき、犯行を計画・立案、共犯者誘引。いずれも凶器・道具を準備、下見、周到に準備、極めて高い計画性。罰金以外の前科なし。被告人は60歳代。第一審は、(1) 第一事件の首謀者は共犯者であること、(2) 当初から保険金取得を目的として保険契約をさせたものではないこと、(3) 借金に頼る被害者の不相当に奢侈な生活が犯行を誘発した側面があること、(4) 各犯行にためらいがみられること、(5) 犯行により金銭を取得できていないこと、(6) 罰金以外の前科がないこと、(7) 謝罪の意思を示していることを挙げて、無期懲役とした。控訴審は、(a) 第一事件は共犯者から誘引されたものの、主体的積極的に行動したこと、(b) 被害者の保険契約を犯行の遠因とするのは妥当でないこと、(c) 無届けの高利貸しで暴利を得ていたこと、(d) 各犯行にためらいはみられず、被害者に長時間苦痛を与えたこと、(e) 犯行により金銭を取得することは本来許されないはずであること、(f) 2件の同種事案を反復し、犯罪性向が高いこと、(g) 遺族に責任転嫁をし、真摯な謝罪がないことを指摘して、死刑とした。

【2b-3】最判平20年2月15日裁判集刑293号55頁

愛人と共謀の上、その夫を殺害、6年後にその子を殺害。愛人の夫について保険金詐取。その子については保険金詐取しようとするも未遂。いずれも薬物で睡眠状態に陥らせ、海中に突き落とす等し、被害者が覚醒すると力づくで海中に沈める。計画性。共犯、積極的役割。愛人の子の殺害を執拗に説得。他に強盗も。享楽的生活。

【2b-4】最判平20年7月17日裁判集刑294号729頁

トリカブトを混入させた食品により45歳男性を病死に見せかけて毒殺しようとするも長引くと見て多量のトリカブトにより毒殺。総合感冒薬や高濃度のアルコールを含有する飲料を61歳男性に連続的に摂取させて化膿性胸膜炎等とし殺害。同様に39歳男性を殺害しようとして未遂に留まる。いずれも愛人らと共謀、共犯。共犯者は無期懲役と有期懲役。計画性高い。巧妙かつ悪質。3億円の保険金詐取。否認、反省なし。

【2b-5】 最判平22年3月18日裁判集刑300号101頁

知人の夫を知人と愛人女性と共謀して催眠薬剤で昏睡させ静脈に空気を大量に注射して殺害し保険金約3500万円詐取。別の知人の夫を知人と別の知人と愛人女性と共謀して催眠薬剤で昏睡させ静脈に洋酒を大量に注射して殺害し保険金約3300万円詐取。愛人女性の母を殺害して預金通帳を奪おうとインスリン製剤を注射するも失敗した強盗殺人未遂。同僚から500万円詐取。第二の殺害事件の共犯者を警察への通報を阻止するため脅迫。いずれも共犯は女性看護師。被告人も女性看護師。本件犯行以前に架空の話で多額の金銭を詐取。詐取した保険金のほぼ全てを取得。堕胎の事実を口外されたため、第一事件の知人には恨み。看護師として医療知識と経験を悪用。勤務先病院から薬剤や医療器具を持ち出し利用。周到な計画と準備。司法解剖させないような画策。犯行を発案、主導、共犯者を操作。前科なし。不合理な弁明。偽証を依頼。真摯な反省なし。

【2b-6】 最判平22年11月8日裁判集刑302号1頁

被告人2名。共謀の上、被告人のうち1名が詐欺の被害者の同居の義兄を刺殺して貯金通帳等を強取、犯跡隠蔽のために現住建造物等放火、死体損壊。共謀の上、被告人両名と訴外1名が被告人のうち1名が死亡したように見せ掛けて生命保険金を詐取する目的でその身代わりに路上生活者を騙して睡眠導入剤を服用させて眠らせ溺死させる。共犯。被告人のうち1名は犯行を立案、他方の被告人を犯行に引き込み、犯行を指示して実行させた首謀者。他方の被告人は指示に従って刺殺事件では実行行為の全てを行い、身代わり殺人事件では実行行為のほぼ全てを行うものの、従属的。首謀者の被告人は詐欺も。首謀者の被告人には前科なし。首謀者の被告人は一部を除き事実関係を認める。他方の被告人は全て事実関係を認める。反省。

【2b-7】 最判平23年6月7日裁判集刑304号101頁

会社の清算を巡って対立していた養父を保険金目的で交通事故に見せかけて殺害、保険金詐取。妻が愛想を尽かして被告人の元を去ってしまうことを懸念して睡眠導入剤を飲ませて浴槽で溺死させ殺害、死体遺棄、保険金詐取。他に窃盗、詐欺13件等。養父の殺害は綿密に計画を練って下準備をした高い計画性、妻の殺害も計画性。長男以外の遺族の処罰感情は極めて厳しい。おおむね事実関係を認め、反省。長男の意思について田原裁判官の補足意見あり。

最高裁において永山事件第一次上告審判決以降平成27年末までに確定した死刑判決一覧

【2b-8】 最判平27年12月4日裁判集刑318号33頁

共犯者の養母に大量の睡眠薬を飲ませて浴槽内で溺死させ、保険金3600万円を詐取。伯父を共犯者が柳刃包丁で刺突して殺害。傷害保険に加入させることをはじめ、2件とも高度の計画性。共犯、共犯者が意のままになることを利用して、終始主導的な立場で犯行を発案、計画、具体的に指示して共犯者に実行させ、詐取した保険金の9分の7を取得。罰金前科。共犯者の養母の遺族感情峻厳。不合理な弁解、反省なし。

(c) その他の利欲目的

【2c-1】 最判昭59年4月27日判時1115号134頁

被告人2名。上司を相次いで絞殺。死体埋める等罪証隠滅。共犯、責任軽重なし。計画性高く、周到準備、協議重なる。反省。

【2c-2】 最判昭62年12月18日裁判集刑247号1305頁

詐欺で逃亡中、未成年者を誘拐し殺害。計画性のない強盗殺人。他に強盗傷人、強盗等余罪多数。執行猶予判決→保護観察付執行猶予判決→実刑2回と単なる財産犯から深化、仮出獄2年後の犯行。反省。

【2c-3】 最判昭63年7月1日裁判集刑250号1頁

酒食と遊興を原因とする横領隠し目的で会社へ放火の際、邪魔と見て上司殺害、放火後、犯行隠滅のため、管理人も殺害。

【2c-4】 最判平元年12月8日裁判集刑253号581頁

覚せい剤購入のため強盗殺人。13歳女性2名を包丁で減多刺し。別に犯行隠し目的等での放火4件。少年時に強盗傷人等の前科2件。暴力団と関係。

【2c-5】 最判平2年2月1日裁判集刑254号1頁

勤務先の会社の窮状打開目的。共犯者と一心同体となり積極的に行動、罪責は劣らない。計画性。証拠隠滅。反省。

【2c-6】 最判平3年11月29日裁判集刑258号779頁

女性関係で解雇、金に困っての犯行。共犯、重要な役割。計画性高い。鉄パイプで殴り、とどめに絞殺。窃盗の前科あり。自白。

【2c-7】 最判平4年9月29日裁判集刑265号117頁



ゲーム賭博でサラ金に多額借財、返済のため、健康保険証を奪い金銭融通する目的。嘘でおびき寄せ、33歳女性を殺害、水中へ死体投棄、その4歳の子を溺死させる。計画性。

【2c-8】最判平7年7月3日裁判集刑266号1頁

会社の倒産によりできた億単位の借金返済目的。共犯、重要な役割、金銭分配ほぼ対等。実行犯。計画性。2件で強取金時価1億円強。

【2c-9】最判平8年10月25日裁判集刑268号207頁

借金返済目的。資金繰りに窮し、金融業者を殺害、3000万円の小切手奪取。犯跡隠蔽のため、従業員を殺害、現金2100万円を奪取。計画性、金属バット携行。反省。

【2c-10】最判平9年1月28日裁判集刑270号1頁

生活費獲得目的。パチンコ等で浪費が原因。宝石商夫妻を殺害、金銭奪取。小刀携行。殺害3日後に現場に戻ってさらに宝石類奪取。

【2c-11】最判平10年10月8日裁判集刑274号1頁

強盗殺人後、放火し、犯跡隠蔽図る。弟が共犯、被告人に主導性。下見する等、計画性。他に強盗致傷。

【2c-12】最判平12年4月4日裁判集刑278号481頁

従弟を殺害し、その土地等を売却し金銭を騙取。兄が共犯、犯行を誘われる。また、単独で近所の老女を絞殺、権利証を強取。周到に準備、計画。

【2c-13】最判平13年1月30日裁判集刑280号29頁

会社経営者の夫婦を大型拳銃で至近距離から殺害。1200万円強取。共犯、主導性。小型拳銃を大型拳銃に代える等高度の計画性。他に昏睡強盗も。犯行前後に種々の強盗殺人や殺人を企図。反省。

【2c-14】最判平13年9月20日裁判集刑280号427頁

同僚1名を金属バットで殺害、コンクリートブロックを付けて川に投棄。ラーメン店主1名に重傷を負わせ、同様に川に投棄し殺害。交際中の外国人女性への送金と窃盗の弁償金工面に苦心。

【2c-15】最判平16年4月27日裁判集刑285号180頁

最高裁において永山事件第一次上告審判決以降平成27年末までに確定した死刑判決一覧

タクシー運転手を強殺。元同僚から強取、失火に見せかけるべく焼殺。飲酒・パチンコで費消し、困窮。焼殺を否定、狡猾な弁明。

【2c-16】最判平16年 6 月25日裁判集刑285号503頁

被告人3名。会社経営者2名をそれぞれ営利誘拐、強殺。被告人のうち1名が身代金目的拐取、拐取者身代金取得、監禁。共犯。被告人のうち1名の親族が慰謝。被告人のうち1名には前科なし、別の1名には罰金以外の前科なし。

【2c-17】最判平16年 9 月13日裁判集刑286号121頁

被告人2名。投資顧問会社社長と従業員を強殺、1億円を強奪。コンクリート詰めにして土中に遺棄。計画性。被告人のうち1名には前科なし、別の1名には罰金以外の前科なし。

【2c-18】最判平16年12月 2 日裁判集刑286号617頁

拳銃で2名を殺害。共犯者に拳銃を渡し強盗致傷と強盗を実行させる。逮捕を免れるため警察官に拳銃を発射。共犯、首謀者。共犯者は無期懲役。バカラ賭博で借金。

【2c-19】最判平16年12月14日裁判集刑286号653頁

フィリピン人ホステスを強殺。パチンコ店に侵入、強盗致傷、1900万円を強取。殺害について計画性。共犯、犯行方法を考案、実行を容易化、中核的な役割。強盗致傷につき、主導性ないものの、積極的に加担、実行行為分担。共犯者は無期懲役。

【2c-20】最判平17年 1 月27日裁判集刑287号23頁

同級生2名をそれぞれ殺害。いずれも、被告人の自動車を盗み放火したように見せかけ、それぞれの親から金員を喝取しようとしたが失敗。計画性。犯意強固。1か月間に次々犯行。犯行時21歳。母親が慰謝に努力。

【2c-21】最判平17年 3 月 3 日裁判集刑287号89頁

高齢女性の土地を無断売却、2億円詐取、犯行発覚防ぐため殺害。共犯者に全責任を押し付けるため拳銃で殺害。覚せい剤使用、拳銃加重所持。計画性。不自然な弁解。弁償。

【2c-22】最判平17年 9 月26日裁判集刑288号33頁

老夫妻を強殺、定額郵便貯金証書を強取。前科なし。責任能力争う。

【2c-23】最判平17年10月17日裁判集刑288号169頁

風俗店経営者と店長を殺害、預金を詐取、店を乗っ取り、8か月間経営。凶器・死体遺棄用の布団等準備。共犯、主導性。遺体はコンクリート詰めにして海中へ投棄。店の利益等約5000万円で慰謝。

【2c-24】最判平18年2月14日裁判集刑289号83頁《第一審無期懲役》

被告人やその家族に対する差別的発言を重ねたことに立腹し、殺害。架空の儲け話により強殺、1200万円強取。共犯、殺人の首謀者、殺害の実行の中心的役割、強殺の実行行為。罰金以外の前科なし。両親が500万円を慰謝しようと努力。反省悔悟。

【2c-25】最判平18年2月24日裁判集刑289号121頁《第一審無期懲役》

窃盗の主導的な共犯者の態度に立腹、殺害。古美術商を強殺。いずれもダムに投棄。600万円窃盗。計画性。共犯、共犯者とともに犯行を計画、準備、積極的に実行。謝罪。

【2c-26】最判平18年3月2日裁判集刑289号209頁

同棲中の女性に覚せい剤を注射して強殺。借金の返済免脱を狙い、強殺。計画性。第二事件につき、共犯。第一事件につき、否認。被害者兩名の死を悼む。

【2c-27】最判平18年3月28日裁判集刑289号267頁

虚偽の融資話を持ち掛け、金融業者の夫妻を強殺、1200万円を強取。計画性。多額の負債。捜査段階では反省。

【2c-28】最判平18年9月7日裁判集刑290号161頁

高級住宅街の夫婦を強殺。共犯、実弟らとともに強盗予備、別の知人らと強盗。内妻に嘘の約束をし、金員を取得、約束の履行に困る。遊興費欲しさ。少年時代不遇。

【2c-29】最判平18年9月21日裁判集刑290号441頁

ホテルの女性従業員を強殺。借金を申し込み、断られた上、その旨を口外するとされたため、女性を強殺、銀行から200万円引出し。強殺について計画性、凶器等を周到に準備、睡眠導入剤を利用。強殺を8か月間に次々犯行。被告人は女性。父親の工務店の資金繰りに窮する。前科なし。母親が慰謝の申出。

【2c-30】最判平18年10月26日裁判集刑290号531頁

最高裁において永山事件第一次上告審判決以降平成27年末までに確定した死刑判決一覧

医師らを土中に埋没、窒息死させる。計画性、事前に遺棄場所に穴掘り。共犯、首謀者、実行行為には直接関与せず。共犯者は最高で無期懲役。経営する会社の経営悪化、多額の借金。捜査段階では事実を認容、公判でも一定の限度で責任認容。被害者の死を悼む心情。

【2c-31】 最判平18年11月24日裁判集刑290号643頁

内縁の妻を殺害。タクシー運転手を強殺。定職に就かず、窃盗等で服役を反復。内縁の妻から手切金を受け取りつつも、無理やりに同居して暴力、金銭を費消、別の男性と結婚したことに立腹。20日足らずの間に次々犯行。凶悪事犯の前科なし。

【2c-32】 最判平19年 2 月 6 日裁判集刑291号129頁

1人暮らしの女性を相次いで強殺。凶器携帯、帰宅待ち伏せ等計画性。遊興費欲しさ。借金あり。建造物侵入窃盗4件等の余罪。不遇な生育歴。反省。

【2c-33】 最判平19年 7 月 5 日裁判集刑292号 9 頁

預金引出しを目論み、拳銃で射殺2件。現金計1200万円を引き出す。計画性。共犯、犯行を提案、手はずを整え率先実行、積極的・主導的。掘削機で遺体を土中深くに埋める。拳銃様の物を突き付け恐喝も。交通事故による罰金以外に前科なし。否認。反省なし。

【2c-34】 最判平19年11月 6 日裁判集刑292号511頁

強盗強姦殺人2件。共犯、共犯者は無期懲役。役割分担等を決め、周到的な準備。ベルトで絞頸、出刃包丁で刺突。顔面に粘着テープを幾重にも巻き付け、浴槽に顔を付けて窒息させ殺害。強盗強姦1件も。強盗強姦等による懲役前科あり、常習性顕著。反省。

【2c-35】 最判平20年 6 月 5 日裁判集刑294号451頁

同棲中の女性の12歳の娘と口論となり背後から包丁で刺突した上で絞殺。殺害の発覚を防ぎ、逃走資金を得るために、鉄製ハンマーで同棲相手の頭部を殴打し、鼻や口を布団で塞ぎながらペティナイフで刺突して殺害、キャッシュカード等を強取し、現金を引き出す。同棲相手の殺害は計画的、凶器を準備、帰宅予定を電話で何度も尋ねる。強盗致傷による服役前科。遺族の処罰感情厳しい。仕事をせずパチンコ三昧。同棲相手の貴金属類を無断で質入れ。その娘の小遣いも盗む。

【2c-36】 最判平21年1月22日裁判集刑296号61頁

暴力団組長とその妻を拳銃で射殺。当初、金品を強取しようと拳銃・脇差し・バール等を準備するも実行計画者が逮捕され強盗予備に留まる。計画が暴力団組長に発覚することを恐れた【2c-37】の被告人から殺害を依頼され報酬目当てに犯行。拳銃の加重所持。白昼、住宅街での犯行。拳銃の加重所持等で前科4犯。

【2c-37】 最判平21年3月23日裁判集刑296号193頁

【2c-36】の共犯者。暴力団組長方を標的とする襲撃計画を立案するも実行計画者が逮捕され、計画が同組長に発覚することを恐れたこともあり、【2c-36】の被告人に依頼して同組長とその妻を拳銃で射殺。白昼、住宅街での犯行。実行行為には直接携わらなかったものの、拳銃を手渡し、組長夫婦の動静を伝えて殺害を促す等犯行に主体的積極的に関与。拳銃の加重所持。飲食店への建造物侵入、威力業務妨害、覚せい剤の自己使用も。多数の前科。暴力団と長年の関係。同組長の妻の殺害に関する共謀の点を除いて事実関係を認め、反省。

【2c-38】 最判平21年6月9日裁判集刑296号751頁

パチンコ店の従業員を殺害して店の鍵を強取し、その鍵を使って店に侵入して売上金を窃取。同様にパチンコ店の従業員を殺害して鍵を強取するも店の金庫の解錠に失敗。いずれも死体を河川に投棄。共犯、共犯者が主導的役割果たすも、第一事件で供用物件を自ら用意、第二事件で襲撃場所を提案、実行行為に積極的に加担、主体的に犯行遂行、取得した現金を共犯者と折半。交通事犯による罰金以外の前科なし。若年。母親が第一事件の被害者遺族に見舞金、店に一部を弁償。定職に就かずパチンコ店に入り浸る。遺族の処罰感情厳しい。反省。

【2c-39】 最判平21年6月23日裁判集刑296号883頁

所属する暴力団から行方をくらませた被害者に憤激し、鉄パイプ等で多数回殴打するうちに殺害を決意し、自動車で轢き、殴る蹴る等した上、海中に投棄。債務免脱を図り、所持金を強取すべく殺害、死体を海中に投棄。共犯者の実母から約2400万円を詐取。共犯、共犯者に指図する等主導して実行、中心的役割。第二事件は周到に犯行方法に関して謀議を重ねる等の計画性。罰金以外の前科なし。遺族の処罰感情峻烈。

【2c-40】 最判平21年12月4日裁判集刑299号1頁

虚偽の説明をして保険契約を締結させたものの、虚偽であることが露見しかねない

最高裁において永山事件第一次上告審判決以降平成27年末までに確定した死刑判決一覧

状況となり、解約に言及されたため、経済的利得の保持のために顧客の夫妻を刺殺。計画性。営業成績を伸ばすために架空の保険契約を締結し、その保険料支払のために保険料の横領を反復。前科なし。自殺を偽装して約13年間逃亡。第1審公判途中から犯行否認、不合理な弁明。遺族感情厳しい。

【2c-41】最判平21年12月11日裁判集刑299号921頁

被告人2名。地域開発事業に絡んで絞殺。建設会社社長に架空の工事話を持ち掛け、ロープで絞殺して現金900万円と4100万円相当の約束手形を強取。計画性高い。死体は重機で掘った穴に遺棄。首謀者の被告人は高齢の女性から額面600万円の小切手を詐取。首謀者の被告人は、道交法違反による懲役前科2犯、罰金前科2犯、反省なし、慰謝なし。もう1人の被告人は、果たした役割が大きい。強殺事件では相応の分け前。前科なし。供述により事案解明。謝罪。慰謝。

【2c-42】最判平22年1月29日裁判集刑300号43頁

民家に侵入して物色中、居直って女性を絞殺。強盗目的で侵入して所携の果物ナイフで女性を刺殺。他に強盗、窃盗等。殺害はいずれも計画的でない。パチスロのための借金の返済に窮しての犯行。絞殺事件後に逃亡するも生活費に窮して2週間で刺殺事件を起こす。遺族の処罰感情厳しい。謝罪の意思。犯行の詳細を進んで供述。

【2c-43】最判平22年10月14日裁判集刑301号323頁

面識のある同じ町内の独居の高齢女性に対する2件の強盗強姦殺人。いずれも強姦は未遂。1件は金品得られず。常習累犯窃盗も。飲食遊興のための犯行。近隣住民の不安や恐怖。知的障害の遺伝負因に加えて生育歴悪い。かつての2件の判決では心神耗弱、直近の2件の判決では完全責任能力。反省。

【2c-44】最判平23年3月24日裁判集刑303号589頁《第一審無期懲役》

強盗目的で住居侵入後に暴行脅迫を加えたところ、抵抗されたため、絞殺。強盗目的で住居侵入後、帰宅を待ち伏せ、所携の金属製バールで殴打して殺害。無免許運転。下見をする等の周到な計画性、2件目には殺害の計画性も。現住建造物等放火罪、強盗致傷罪、窃盗罪等で服役4回、事件前約18年間は恐喝未遂罪による執行猶予と業務上過失傷害罪による罰金刑あるも服役なし。処罰感情峻烈。被告人は第一審判決言渡し時74歳。謝罪の意、被告人なりの反省、香典送付。第一審は、1件目について強盗致死罪であるとし、無期懲役を言渡した。控訴審は、1件目について強盗殺人罪とし、

死刑を言渡した。

【2c-45】最判平24年1月16日裁判集刑307号1頁

窃盗の目的で侵入した被害者宅が女性の2人暮らしであることを知って、強盗強姦の目的で同宅に再度侵入し、帰宅した女性とその次女を播粉木で強打し絞頸する等して殺害、金品を強取した後、被害者両名を強姦しようとするも失敗、死体遺棄。目出し帽、軍手、ローブ等を用意し、被害者宅にあった播粉木に滑り止めを施す等強盗強姦の計画性が高いものの、侵入当初から殺害までは計画せず。パチスロにふけて家賃の支払や借金の返済に窮しての犯行。他に別人宅等への住居侵入、窃盗等。前科なし。被害感情峻烈。捜査段階及び第1審公判では事実を認めて反省。

【2c-46】最判平24年3月2日裁判集刑307号635頁《第一審無期懲役》

知人宅で知人男性を鈍体で殴打して殺害。帰宅した同人の妻の頸部や手関節を針金で緊縛して殴打し殺害。鈍体や人を緊縛するのに有効な形状に成形された針金を携行する等の計画性。他に別の知人宅での窃盗。前科は罰金刑のみ。凶器を投棄する等して証拠隠滅。強盗目的を否認、凶器の準備に関し不合理な虚偽供述、後悔や謝罪の言葉を述べるも真摯な反省なし。

【2c-47】最判平24年7月24日裁判集刑308号159頁

中国人の女性の留学生からバッグを強奪し、追い掛けてきた同女を骨そぎナイフで刺突して失血死させる強盗殺人、取り押さえようとした男性を同ナイフで突き上げて傷害を負わせる強盗殺人未遂。約7年半後に飲食店の入るビルの共同トイレにおいて金品を強奪する目的で男性を刺突し失血死させる強盗殺人。いずれも生活費や遊興費に窮しての犯行。1件目は共犯。いずれも凶器を準備して相手を物色する等強盗については計画性。20歳のときに刃物等の凶器を利用した強盗致傷、強盗、強盗未遂で服役。2件目について強盗目的を隠して警察に出頭、DNA鑑定により1件目の犯人であることが発覚。一時は真面目に稼働。反省、謝罪の意思。

【2c-48】最判平24年10月19日裁判集刑308号261頁

生活費や遊興費に窮して自己の居住するアパートの大家の夫婦をサバイバルナイフで刺突して殺害、財布や貴金属類を強取。ナイフや覆面用ストッキングを用意する等の殺害の計画性。本邦における前科なし。中国籍で不法在留。遺族の処罰感情峻烈。謝罪の意思表明、反省。



最高裁において永山事件第一次上告審判決以降平成27年末までに確定した死刑判決一覧

【2c-49】最判平25年12月17日裁判集刑312号147頁

資産家宅に侵入し、金品を強取、姉弟を窒息死させ殺害。重機で畑に穴を掘り、死体遺棄。キャッシュカード等により ATM から現金を窃取。多額の負債の返済に窮しての犯行。下見、供用物件の準備等計画性が高い。共犯、首謀者、断られても次々誘引、共犯者は無期懲役が確定。前科なし。地方公務員として長年稼働。反省の態度。

【2c-50】最判平26年12月2日裁判集刑315号195頁

同棲中の不倫相手に無断で使い込んだ約990万円の返済を迫られたため、債務の支払を免脱しようと頸部を両手で圧迫して窒息死させて強殺。4年4か月後、別れ話のもつれから、別の不倫相手の頸部を両手で圧迫して窒息死させて殺害、死体遺棄。1人目の不倫相手のキャッシュカード等を使って約2358万円を引き出す等した窃盗、有印私文書偽造、同行使、詐欺。1人目の不倫相手はドラム缶に入れられ、5年後に発見、遺体は死蟻化。いずれも計画性なし、突発的犯行。殺害後の犯情悪い。遺族の処罰感情厳しい。謝罪の意思、反省の態度。

(d) 性的目的

【2d-1】最判昭63年5月20日裁判集刑249号583頁

強姦未遂後殺害、とどめを刺す。また、山中で声をかけて騒がれ殺害、死後にわいせつ行為。強盗致傷で服役、仮出獄後、強姦殺人で服役、仮出獄中の犯行。精神病質。通算4名か。発覚せず公訴時効に至った強盗殺人あり、控訴審は量刑資料とせず。

【2d-2】最判平元年6月13日裁判集刑252号49頁

情交関係にあった女性へ結婚申入れるも拒絶され逆上、殺害、屍姦後死体焼却。ギャンブルや遊興で金に困り金品物色中に発見され、強姦するも未遂、殺害、屍姦未遂。計画性なし。第一の殺害を自首。強盗罪等の前科あり。真摯な反省なし。

【2d-3】最判平2年9月13日判時1358号150頁《第一審無期懲役》

夜間単身歩行中の女性を車で物色、暴行により失神させ強姦後絞殺2件。同種態様の強姦致傷1件。計画性。女性関係の乱れのために妻と不和が原因。被害者に落ち度なし。地域社会に大きな不安。交通事犯以外の前科なし。勤務態度は真面目。公判途中で強姦殺人2件について否認に転ずるがそれまでは反省。強姦致傷については一貫して反省。知能限界級。第一審は情状を指摘し、無期懲役とした。控訴審は犯情の悪

さを指摘し、死刑とした。

【2d-4】 最判平12年2月4日裁判集刑278号1頁

車を利用した犯行。強盗強姦殺人2件。強盗強姦未遂1件。強盗未遂1件。途中、強姦致傷で服役。強盗致傷、強盗強姦の前科あり。

【2d-5】 最判平18年9月8日裁判集刑290号210頁

小学生の女子児童2名をそれぞれ略取、誘拐、わいせつ行為。捜査段階から否認。慰謝なし。DNA 鑑定に争い。

【2d-6J】 最判平24年2月20日判時2167号118頁《1名の裁判官の反対意見あり》

強姦目的で社宅に上がり込み、抵抗されたため女性を絞殺、泣き出した乳児を絞殺。被害女性の財布を窃取。殺害の計画性なし。犯行当時18歳の少年。第1次上告審以降、傷害致死を主張、不合理な弁明、反省不十分。第1審は無期懲役を言渡し、第1次控訴審も維持した。第1次上告審は、(a) 犯行の罪質が甚だ悪質であること、(b) 結果が極めて重大であること、(c) 犯行の動機及び経緯に酌むべき点がないこと、(d) 強固な犯意の下に冷酷、残虐にして非人間的な所業を行なったこと、(e) 犯行後の情状もよくないこと、(f) 遺族の被害感情が峻烈を極めていること、(g) 慰謝の措置が全く講じられていないこと、(h) 社会に大きな衝撃を与えたことを指摘した。さらに、(i) 殺害の計画性がないことは特に有利に酌むべき事情と評価するには足りないこと、(j) 犯罪の傾向が軽視できないこと、(k) 犯行時18歳になって間もない少年であったことは死刑を回避すべき決定的な事情とは言えないこと等を挙げて、刑法411条2号により破棄差戻とした（最判平18年6月20日判時1941号38頁）。第2次控訴審は、「当審公判で、虚偽の弁解を弄し、偽りとみざるを得ない反省の弁を口にしたことにより、死刑の選択を回避するに足りる特に酌すべき事情を見出す術もなくなったというべきである」と判示して死刑を言渡した。第2次上告審は判決を維持した。

(e) 愛憎ほか

【2e-1】 最判平3年1月31日裁判集刑257号155頁

夫と愛人の仲を疑い、ガス利用のCO中毒で夫殺害。自己の経営するバーのホステスの内縁の夫の素行に憤慨、同情から眠らせて同人を絞殺。各事件に共犯者あり。主導的役割。被告人は女性。

最高裁において永山事件第一次上告審判決以降平成27年末までに確定した死刑判決一覧

【2e-2】 最判平4年1月30日判時1412号145頁

結婚に反対され実父母を多数回刺し殺害。計画性はなかったが、犯行隠しのため、死体を海中へ投棄。素行に問題。犯行後遊興。逮捕後自白も公判では全面否認。犯行当時22歳。

【2e-3Li】 最判平4年9月24日裁判集刑261号91頁

別れ話のもつれで逆恨み、元妻の叔父の妻と養女を殺害、金品強取。多数回刺す。死後下着を剥ぐ。本件犯行後遊興。責任転嫁。元妻の母を殺害し、無期懲役で服役、仮出獄中、被殺者通算3名。他に粗暴犯前科4犯。

【2e-4】 最判平5年9月9日裁判集刑262号341頁

覚せい剤使用により、妻の不貞を妄想、暴行脅迫し離婚されたことを逆恨み。元妻の兄宅で、兄とその妻を刺殺、その娘2名に重傷を負わせ、金品強取。計画性。謝罪なく反省薄く責任転嫁。前科多彩。

【2e-5】 最判平18年6月9日裁判集刑289号293頁

被告人2名。取立てを依頼された手形金の支払に応じないことに立腹、債務者の妻とその妹をガソリンを使用して焼殺。共犯、それぞれ、犯行の重要部分を積極的に分担、積極的に犯行を推進、別の共犯者4名に指示命令。用意周到な計画。反省の情。被告人のうち1名には前科なし、別の1名には罰金以外の前科なし。

【2e-6Li】 最判平18年6月13日裁判集刑289号315頁

同棲中の女性を我が物にしようと女性と別居中の夫を殺害。待ち伏せ。強盗殺人等により無期懲役で服役。仮出獄中の犯行。

【2e-7】 最判平19年4月19日裁判集刑291号555頁

社会への不満から無差別通り魔。女性2名を包丁で刺突し殺害。男性を玄能で殴打した上で包丁で切り付け殺人未遂。凶器準備。重大前科なし。

【2e-8】 最判平19年6月19日裁判集刑291号693頁

夫ある女性に横恋慕、交際を拒否されて絶望、夫婦をサバイバルナイフで多数回刺突し、頸部を切り裂く等して殺害。中国人留学生。真摯な反省なし。これまで生活に問題なし。被害女性との関係について補足意見。

【2e-9】 最判平21年 6 月15日裁判集刑296号845頁

飲食店経営者に対する暴行事件の慰謝料及び看板料として要求された高額の金銭を支払えば面子が潰れると考え、支払を装って呼び出した営業中のファミリーレストランでテーブル越しに発砲、逃げ出した被害者を追い掛け、出入口及び店先で2名を射殺。一般客のテーブルに着弾。【2e-13】の被告人ら他の組長2名が共犯、率先して発砲、積極的に犯行遂行。計画性。強固な殺意。被害者の不当な要求が誘発。暴力団構成員であるが塗装業に従事。交通事犯で服役、傷害罪で執行猶予付き懲役刑。反省。謝罪。

【2e-10】 最判平23年 3 月25日裁判集刑303号647頁

友人のトラブルに報復しようと、3名を監禁、暴行、2名から財布を強取、警察への発覚等を恐れて産業廃棄物集積場にショベルカーで穴を掘って生き埋めにして2名を殺害。共犯、主導性、率先して実行行為、渋る共犯者を説得。少年時に前歴。事実関係をおおむね認め、反省。

【2e-11】 最判平23年 4 月11日裁判集刑304号1頁

不倫相手の上司の発言に憤激して絞頸、包丁を購入して刺殺、死体遺棄。不倫関係が妻に発覚して絞殺、電気丸鋸で解体、死体遺棄。妻の殺害について計画性。犯跡隠蔽工作。前科なし。峻烈な処罰感情。遺族に謝罪文送付、控訴審で被害弁償金提示、不合理な弁明、真摯な反省なし。

【2e-12】 最判平23年11月29日裁判集刑305号455頁

不倫関係の女性と借金返済をめぐる口論となり、絞頸して窒息死させ殺害。3年9か月後に不倫関係の女性から不倫関係や会社に対する背信的取引について暴露すると告げられて激高し同様に殺害、遺体を切断して遺棄。計画性なし。前科なし。遺族の処罰感情厳しい。慰謝の措置なし、不合理な弁明。

【2e-13】 最判平23年12月15日裁判集刑306号767頁

【2e-9】の共犯者。被告人は暴力団組長、傘下の暴力団組長と配下の組員が共犯、謀議にも積極的に関与、発砲、重要な役割。計画性。強固な殺意。被害者の不当な要求が誘発。拳銃1丁の所在を警察に通報、1年10か月の逃亡後に警察に出頭。謝罪の意を表し、賠償金の支払申出。

最高裁において永山事件第一次上告審判決以降平成27年末までに確定した死刑判決一覧

【2e-14】最判平24年12月11日裁判集刑309号77頁

雇っていた人夫2名が飲酒して当て逃げ事故を起こしたため制裁を加えたところ、反抗的な態度を示したため、怒りを募らせて監禁した上でロープ又は両手で絞頸して窒息死させ殺害。共犯、主導性。雇っていた別の人夫を木刀で死に至らしめた傷害致死。偶発的犯行。他に逮捕監禁、横領。罰金刑以外の前科なし。逮捕監禁及び横領については反省。

【2e-15】最判平24年12月14日裁判集刑309号205頁《第1審無期懲役》

思い通りにならない相手方の態度に激怒する等して、フィリピン人女性を絞頸して窒息死させて殺害。約9年後、家賃の支払い等を巡って同居していたフィリピン人女性を両手で絞頸して窒息死させて殺害、カッターナイフ等を用いて死体を切断する等して損壊して遺棄。1件目の経験を利用して2件目の犯行を敢行。峻烈な処罰感情。捜査段階で詳細な自白、その後に変遷するも第1審の最終段階では自白と同旨の供述。1件目の死体損壊及び遺棄については懲役3年6月の判決が確定。第一審は、1件目の殺害については懲役14年に処し、2件目の殺害等について、(1)被害者にも被告人の気持ちを利用していたと受け止められかねない面があり、態度等に思いやりにかけての面があつて犯行を誘発するきっかけとなったことから見ず知らずの第三者に対する犯行と比べれば量刑上一定の考慮ができること、(2)他の死刑確定事案に比べて、殺害の手段方法が残虐と評価することができないこと、(3)死体損壊及び遺棄について殺害が残虐な事案と同等の評価まではできないこと、(4)1件目と2件目の殺害には相違点があつて無視できないこと、(5)殺人等による服役前科がある事案とは同視できないこと、(6)被告人に矯正の可能性がないとまで言い切ることができないこと等を指摘して無期懲役とした。控訴審は、2件目の殺害等について、(a)被害者との関係は被告人にとって割に合うと思っていたのであつて、被害者が被告人を一方的に利用していたわけではないこと、(b)死体損壊及び遺棄は凄惨かつ非人間的な所業であること、(c)被害者は22歳と若く、2歳の子どもがいたこと、(d)慰謝の措置が採られていないこと、(e)被害者遺族に峻烈な被害感情があること、(f)殺害及び死体損壊等が客観的にも主観的にも一連一体の行為であると評価でき、死体損壊及び遺棄の残虐性を含めた一連の犯行の悪質性が十分に考慮されるべきであること、(g)1件目と2件目の事件には類似性があり、著しい反社会性や犯罪性向に無視し難いものがあつて、1件目から2件目に至って凶悪な犯罪性向がより深まっていると言えること等を挙げ、

死刑とした。

【2e-16】 最判平25年11月25日裁判集刑312号73頁

金品を強く要求される等したことに激高して、交際女性をハンマーで殴打して殺害。口封じのため、同女の妊娠中の友人をハンマーで殴打して殺害。各死体を切断し、ペンチで抜歯する等して山中及び海中に遺棄。覚せい剤の所持、使用。殺害の計画性なし、偶発的。遺体の頭部は発見されず。業務上過失致死傷罪により服役、仮出獄して2か月後の犯行。生育歴悪い。基礎学力乏しい。不合理な弁解、反省窺えない。

【2e-17】 最判平26年6月13日裁判集刑314号1頁

子どもの頃に飼い犬が殺処分にあったこと等の仇討ちの考えを抱き続けていたところ、厚生労働行政一般に対する不満等を募らせ、元厚生労働事務次官と妻を包丁で刺突して殺害。別の元厚生労働事務次官の妻を刺突して殺人未遂、重篤な後遺症を負わせる。元社会保険庁長官で元最高裁判事の自宅近辺に刃物等を積み込んだ自動車で赴く殺人予備、銃砲刀剣類所持等取締法違反。極めて高い計画性、周到な準備。罰金前科以外の前科なし。社会へ衝撃。

(f) 拳銃奪取目的

【2f-1】 最判平9年12月19日裁判集刑272号613頁

警察官を殺害し、拳銃奪取。当該拳銃で金融会社を襲撃、現金奪取。計画性。警察官時代に拳銃を窃取し、これを使用して強盗致傷罪を犯し服役、仮出獄後5日後の犯行。

【2f-2】 最判平10年9月17日裁判集刑273号915頁

銀行強盗使用を企図。警察官を襲撃し、殺害、駆けつけた警察官も殺害、拳銃奪取には失敗。計画性、周到な準備。

(g) 政治的目的：爆発物使用

【2g-1】 最判平6年7月15日裁判集刑263号627頁

北海道庁爆破事件。81名負傷。後遺障害を負った被害者多数。計画性。

最高裁において永山事件第一次上告審判決以降平成27年末までに確定した死刑判決一覧

(x) そ の 他

【2x-1】最判平7年6月8日裁判集刑265号757頁

保護観察付執行猶予とされたものの保護観察所へ出頭しなかったため、執行猶予が取消され指名手配になると思い込み、通報を恐れて73歳女性を殺害。さらにその殺害を知った男性を溺死させ殺害。離婚した妻とともに犯行、主導性。真摯な反省なし。

【2x-2】最判平18年10月12日裁判集刑290号499頁

離婚しようとしていた妻を殺害。絶対的な服従下において嗜虐癖の対象としていた男性の衰弱を認識しながら暴行により殺害。同様に嗜虐癖の対象としていた2名に傷害7件。長期に亘る常軌を逸した陰惨な虐待。遺体は実父に土中に埋めさせ、後に焼却。若年。

【2x-3】最判平19年6月12日裁判集刑291号663頁

暴力団元組長を射殺。実行を命じ、繰り返し叱責して執拗に早期実行を迫り、具体的な殺害方法まで指示。口封じのため、射殺事件の共犯者である配下の組員を絞殺。実行行為者に犯行回避を懇願されるも高圧的に実行を迫る。散弾銃4発発射して腰部に命中させ、被害者に後遺障害を与えた殺人未遂1件等の余罪。暴力団組長。否認。殺人未遂の前科。一部被害者との間で示談成立。

【2x-4】最判平23年4月19日裁判集刑304号59頁

保険金詐欺の共犯者を口封じのために産業廃棄物を焼却中の穴に落とし、這い上がってきたため自動車のトランク内に入れて絞殺、自動車ごと産業廃棄物処分場に埋め、死体遺棄。借金を返さない税理士に腹を立て、木板に粘着テープで縛り付けて地面に横たわらせ、自動車で2回轢き、瀕死の状態の被害者をごみ収集車の積み込み装置内にかき込ませ、殺害。詐欺、電磁的公正証書原本不実記載、威力業務妨害。罪証隠滅工作。教護院送致1回、窃盗罪による少年院送致2回、窃盗罪や詐欺罪等による服役3回。服役中に進行性筋ジストロフィーの診断を受けて金儲けを画策。被害感情峻烈。責任転嫁、不合理な弁明、一定の反省。贖罪寄付。

## 5 被殺者1名の事案

(a) 身代金目的

【1a-1】最判昭62年7月9日判時1242号131頁



22歳女性を誘拐殺害後に身代金要求。殺害を含めて計画・準備。不倫関係やギャンブルが原因。死体は川に投棄。

【1a-2】 最判昭63年4月28日裁判集刑249号425頁

妻の養父の娘を誘拐，クロロホルムで眠らせ準強姦未遂，身代金要求後殺害。殺害も含めて計画。女性との遊興で借金多額に至ったのが原因。養父からも多額の借財。

【1a-3】 最判平3年6月11日裁判集刑258号3頁

顔見知りの9歳男児を誘拐，殺害後身代金要求。計画性低いが誘拐1時間半後に殺害。横領により解雇された後の浪費による多額の借財が原因。

【1a-4】 最判平10年4月23日判時1638号154頁

小学校時代の同級生を誘拐，頭部を一升瓶で殴打，哀願を無視してコンクリートブロックで撲殺。計画性。被害者の恋人を監禁，集団で強姦。殺害をも意図。共犯，主導的中心的役割。無為徒食。主導性争う，訴訟遅延企図，一応の反省。

(b) 保険金目的

【1b-1】 最判平元年3月28日裁判集刑251号413頁

日建土木保険金殺人事件。最判平8年9月20日刑集50巻8号571頁の共犯者。同種未遂1件も。3億円の高額大型保険をかけ犯行。暴力団組長。強姦致傷等前科4犯。

(c) その他の利欲目的

【1c-1】 最判昭62年7月17日判時1248号138頁

兄とともにバットで殴打，ロープで絞殺し，1000万円強を奪う。共犯，主導性。計画性高い。経営難で多額の借財が原因。兄弟で責任転嫁。罪証隠滅。保険金目的での妻殺害未遂も。詐欺及び横領で服役の前科。

【1c-2】 最判昭63年4月15日判タ667号103頁

医師を監禁，刺し，大量出血で苦しみ哀願する被害者を15時間ほど放置，2000万円の要求失敗し殺害。バラバラにして海に投棄。共犯，罪責対等。計画性高く，準備周到。経営上の借金と遊興が原因。遺体の一部未発見に乘じさらに金員を得る計画。反省するも責任転嫁。

最高裁において永山事件第一次上告審判決以降平成27年末までに確定した死刑判決一覧

【1c-3Li】最判平2年12月14日裁判集刑256号473頁

居直り強盗。ナイフ携行，とどめに絞殺。後遺障害大きい強盗致傷等余罪多数あり。無為徒食が原因。強盗殺人で服役，仮出獄中の犯行，出所1年後から窃盗累行。反省。

【1c-4Li】最判平3年2月5日裁判集刑257号169頁

携行した石塊で強打，犯跡隠蔽。計画性。ギャンブルで借金が原因。少年時に同種の強盗殺人。強盗傷人で服役，仮出獄7年後の犯行。真摯な反省なし。

【1c-5】最判平9年4月28日裁判集刑270号533頁

留守宅を金品物色中，発見され，強姦殺人。同種状況での強盗強姦1件。反省。

【1c-6Li】最判平13年12月6日裁判集刑280号871頁

若い女性1名に対する強盗殺人により無期懲役で服役，仮出獄中の犯行。他に若い女性に対する殺人未遂，強盗傷人，強盗予備。連続通り魔事件として，地域社会に不安。仮出獄後，100日余り後から半年弱の間の犯行。若い売春婦から病気をうつされたため，若い女性に憎悪。非社会性人格障害。進んで自供。反省悔悟。

【1c-7】最判平19年3月22日裁判集刑291号235頁《第1審無期懲役》

スナックの女性経営者を強殺。現場の指紋を拭き取る。わいせつ目的の犯行に見せかける偽装工作。旅館の女性経営者を同種手口で強殺した前科で懲役15年。詐欺及び窃盗20件等の余罪。反省。

【1c-8Li】最判平19年4月10日裁判集刑291号337頁《第一審・第1次控訴審無期懲役》

強盗殺人。石で強打して失神させ，携行していたビニール紐で絞殺。共犯。オートレース等による借財の返済のために，顔見知りの主婦に対してなした強盗殺人罪で無期懲役の判決を受けて服役，仮出獄中の犯行。第一審は，(1) 計画性の低さ，(2) 逮捕後速やかに犯行を自供したこと，極刑を覚悟していること，前刑の服役態度が真面目で早期に仮出獄したことから，改善更生の余地がないと言い切れないこと，(3) 無期懲役に処せられ仮出獄中に強盗殺人を犯した者は直近10年以内に確定した事例において全て死刑となっているが，そうした事例に比べ，殺害の手段・方法の執拗性・残虐性や前歴の点で情状の悪質さの程度が低いこと等の点を指摘して，無期懲役の判決を下した。控訴審も無期懲役を維持した。最高裁は，「死刑制度を存置する現行法制の下では，犯行の罪質，動機，態様殊に殺害の手段方法の執よう性・残虐性，結果の

重大性殊に殺害された被害者の数、遺族の被害感情、社会的影響、犯人の年齢、前科、犯行後の情状等各般の情状を併せ考察したとき、その罪責が誠に重大であって、罪刑の均衡の見地からも一般予防の見地からも極刑がやむを得ないと認められる場合には、死刑の選択をするほかないものといわなければならない」と判示し、(a) 犯行の罪質及び結果が重大であること、(b) 遺族の被害感情が厳しいこと、(c) 社会的影響が大きいこと、(d) 犯行の動機がパチンコに熱中して借金を重ね、その返済に窮したためであること、(e) 殺害の手段方法及び犯跡の隠蔽が冷酷かつ残虐であること、(f) 共犯者との関係で終始主導性を保っていたこと、(g) 共犯者の自首を断念させた上、自らは仕事もせず、パチンコに熱中する生活が続ける等事後の情状が悪いことを指摘した。さらに、(h) 強盗殺人罪により無期懲役に処せられて服役し、仮出獄中に再び強盗殺人の犯行に及んだことを指摘した上で、前件の強盗殺人と本件の強盗殺人は、遊興による借金の返済のために顔見知りの女性の好意に付け込み、計画的に犯行を実行したという点において、顕著な類似性が認められ、被告人の反社会性・犯罪性は軽視できないとして、「本件で殺害された被害者は一名であるが、被告人の罪責は誠に重大であって、特に酌量すべき事情がない限り、死刑の選択をするほかないものといわざるを得ない」と述べた。その上で、原判決及び第一審判決が摘示した3つの酌量事情について検討し、(A) 計画性が低いとは言えないこと、(B) 改善可能性があると言い難いこと、被害者の遺族に対する慰謝の措置が何ら講じられていないこと、主観的事情の過度の考慮は妥当でないこと、(C) 他の被殺者2名事例と比べて悪質さの程度が低いとは言えないことを指摘し、刑法411条2号により破棄差戻とした（最判平11年12月10日刑集53巻9号1160頁）。第2次控訴審で死刑とされ、第2次上告審は上告を棄却した。

【1c-9】最判平23年3月1日裁判集刑303号57頁《第一審無期懲役》

経営者を拳銃で射殺して売上金を強取。駅員から売上金を強取しようと拳銃を発砲、重篤な後遺障害を負わせる強盗殺人未遂、拳銃発射、加重所持。東京駅地下への現住建造物等放火。建造物侵入、強盗未遂。下見を繰り返し、犯行に必要な用具を準備する等、高い計画性。少年時に窃盗罪等により5回検挙、中等少年院送致、特別少年院送致。窃盗罪等により6回服役、常習賭博罪により執行猶予、強盗致傷罪等により服役、執行猶予取消し、強盗致傷罪により服役、窃盗罪により服役。ほかに賭博罪、傷害罪により罰金刑3回。遺族の処罰感情厳しい。自己顕示のために出頭、自首。不遇

最高裁において永山事件第一次上告審判決以降平成27年末までに確定した死刑判決一覧

な生育歴。謝罪。第一審は、(1) 被害者が1名であること、(2) 殺人等の重大事件を起こしていないこと等を指摘し、無期懲役を言渡した。控訴審は、(a) 犯行が計画的で用意周到であること、(b) 駅員に重篤な後遺障害を与えていること、(c) 犯罪傾向が深化していること等を指摘し、死刑を言渡した。

(d) 性的目的

【1d-1Li】最判平2年4月3日裁判集刑254号341頁《第一審無期懲役》

暴行し失神させるも意識回復、姦淫は未遂、犯行発覚恐れ、短刀で多数回陰部を含めた身体各所を刺す。周到な計画なし。慰謝の措置なし。社会に不安。少年時に女性を狙った同種態様の強盗殺人で10年服役、満期出所3か月後の犯行。第一審は、犯罪傾向が顕著で改善可能性が小さく、弁解を弄し、反省がないことを指摘しつつも、(1) 生育歴が悪く知能が限界級から愚鈍級で人格の偏りがあるとして医療刑務所に移送されていた上、鑑定によれば、爆発性異常性格を基盤とした異常人格に知的障害が加わり発展したもので全て被告人に帰責し難いこと、(2) 改善可能性がないわけではないこと、(3) 死刑求刑後に否認に転じたのであり、反省が全くないとは言えないことを指摘し、無期懲役とした。控訴審は、(a) 犯行態様が残酷かつ非道であり、出所後に真面目に働いていなかったこと、(b) 被害者家族の生活が激変したこと、慰謝の措置が講じられていないこと等を挙げた上、(c) 能力的に通常の社会生活に支障がないこと、(d) 犯罪傾向が極めて深化しており、改善可能性に乏しいこと、(e) 真摯な反省が窺われないことを指摘して、死刑とした。

【1d-2Li】最判平4年2月18日裁判集刑260号9頁

3歳女兒にわいせつ行為、殺害。別に5歳女兒への強制わいせつ1件。少年時に幼女に強姦未遂で保護観察、わいせつ行為を反復累行。成人後、7歳女兒への強姦殺人で服役、仮出獄中の犯行。軽度の知的障害、精神病質。反省。

【1d-3】最判平20年2月29日判時1999号153頁《第一審無期懲役》

短大生を自動車内に押し込み、逮捕監禁、強姦。犯行の発覚を恐れるとともに覚せい剤仲間のもとで覚せい剤を早く使用したいとの思いから、ガムテープで縛って灯油を浴びせ掛けて焼殺。窃盗等で2度の少年院送致歴。窃盗で保護観察。覚せい剤取締法違反等により執行猶予。同期間中の強盗致傷等で服役。仮出獄9か月後の犯行。本件犯行後に業務上過失傷害等で服役中に本件犯行が発覚。取調べにおいて当初否認、

強姦を認めた後も共犯者の存在を主張。峻烈な被害感情。第一審は、(1) 強姦の犯意が生じたのは自動車内に押し込んだ時点であり、当初は言葉を掛けて誘い続けたこと、(2) 当初から殺害を計画していたわけではないこと、(3) 殺害後に動揺していたこと、(4) 生育環境が劣悪であったこと、(5) 生命・身体を侵害しようとする前科がなく、この種の犯罪傾向が顕著であるとは言えないこと等を指摘し、無期懲役とした。控訴審は、(a) 誘い方が強引かつ執拗で体力に物を言わせて誘おうとしており拉致や強姦へ発展したこと、(b) 焼殺を決断すると手際よく迅速に行動していること、(c) 覚せい剤仲間は平然としていたと述べている上、被告人が手に付いた灯油を洗い流したり、被害者の自転車を川に投棄する等の犯跡隠蔽を行ったりしており、冷静で周到な行動をとっていること、(d) 生育環境よりも被告人の生き方に問題があること、(e) 徐々に凶悪性の程度が増していること等を指摘し、死刑とした。

(e) 愛憎ほか

【1e-1】最判平16年10月13日判時1889号146頁《第一審無期懲役》

強姦致傷・窃盗・恐喝未遂の被害者を逆恨みし、服役・出所後、殺害、財物窃取。強姦致傷の逮捕時から殺害を計画。凶器準備。計画性高い。殺意強固。殺人の前科あり、懲役10年。反省。第一審は、(1) 被害者が1名であること、(2) 動機が利欲的なものではないこと、(3) 計画が綿密周到なものでないこと、(4) 謝罪がなされていること、(5) 殺人の前科は単純な衝動殺人であることを指摘し、無期懲役とした。控訴審は、(a) 被殺者数が絶対的基準ではないこと、(b) 動機が極めて理不尽かつ身勝手であり、保険金目的や身代金目的と差がないこと、(c) 強固な殺害意思と周到で高度な計画性に基づくものであること、(d) 内省が十分でないこと、(e) 殺人前科は少女に対するものであって類似性があり、犯罪性向が相当深化したと言えることを指摘し、死刑とした。

【1e-2】最判平19年9月28日裁判集刑292号199頁

暴力団組員との紛議の仲裁を求めた男性の態度に立腹、手足を縛ったまま川に投げ込み溺死させる。紛議収集名目で金品を要求するため、4人を監禁、拳銃を突き付け、高濃度の覚せい剤を注射、女性1名を急性中毒で死亡させ、犯行隠蔽目的で3名の手足を縛り、灯油を撒き、3名の胸部等を鋏で刺突した強盗殺人未遂。いずれも共犯、主導性。

最高裁において永山事件第一次上告審判決以降平成27年末までに確定した死刑判決一覧

【1e-3Li】 最判平19年11月30日裁判集刑292号645頁

被害者に対する未練から金策ができると嘘を付き、借金をして多額の金銭を貸し付けていた女性に返済を求めたところ開き直られ激高、両手やコードで頸部を締め付け、殺害。隠蔽工作。被害者の態度に誠実さに欠けるところも。交際中の女性との金銭問題に絡んで激情に駆られて犯した2件の殺人罪等で無期懲役に処され、仮出獄中、仮出獄後約1年9か月の犯行。反省。

(f) 拳銃強取目的

【1f-1】 最判昭62年10月23日裁判集刑247号117頁

政治家家族の誘拐に利用する目的で職務中の警察官を誘い出し、鉄棒で乱打、多数回刺し、犯行発覚後も行為継続。住宅建築資金を得るのが狙い。同じ動機の強盗傷人の前科あり。反省不十分。精神病質。